

AXIS 5800 補足資料

(第 1 版)

アクシスコミュニケーションズ株式会社

目次

1 はじめに	1
1.1 商標について	1
2 AXIS NetPilot・AXIS Print Monitor	3
2.1 インストール	3
2.2 インストールの開始	4
2.3 アンインストール	8
3 AXIS NetPilot の使い方	11
3.1 AXIS NetPilot の起動	11
3.2 画面構成と各メニュー	11
3.2.1 ファイルメニュー	12
3.2.2 セットアップメニュー	14
3.2.3 表示メニュー	15
3.2.4 ツールバー	16
3.3 Axis プリントサーバのインストール（設定）	17
3.4 ネットワーク環境の変更	28
3.4.1 NetWare 環境の変更	28
3.4.1.1 プリントキューの接続（プリントサーバモード）	30
3.4.1.2 プリントキューの接続（リモートプリンタモード）	31
3.4.1.3 リモートプリンタモード（NetWare4.1xJ・バインダリ接続）	33
3.4.1.4 バナータイプの変更	35
3.4.2 Windows、OS/2 環境の変更	35
3.4.3 AppleTalk 環境の変更	37
3.5 プロパティページ	38
3.5.1 一般プロパティ	39
3.5.2 NetWare プロパティ	41
3.5.3 Windows、OS/2 プロパティ	42
3.5.4 AppleTalk プロパティ	43
3.5.5 TCP/IP プロパティ	45
3.5.6 論理プリンタプロパティ	46
3.5.7 プリンタポートプロパティ	48
3.6 プリントサーバフォルダの作成	49
3.7 プリンタの監視	51
3.8 その他の機能	54
3.8.1 パラメータリストエディタ	54
3.8.2 概要ウィンドウ	56
3.8.3 プリントジョブウィンドウ	57
4 axinstall（UNIX 環境での設定）	59
4.1 axinstall による自動設定	59
4.1.1 BSD 系 UNIX の自動設定	59
4.1.2 System V 系 UNIX の自動設定	66
4.2 日本語 UNIX 環境での設定（手動設定）	73
4.2.1 AIX 4.x	73

4.2.2 HP-UX 10.xx	76
4.2.3 Solaris 2.6	81
5 問題解決	.87
5.1 LED（インジケータ）を利用した問題の切り分け	87
5.2 NetWare 環境	87
5.3 Windows 環境	88
5.4 OS/2 環境	90
5.5 Macintosh 環境	92
5.6 UNIX 環境	94
5.7 その他	95

1. はじめに

この冊子では、付属の CD-ROM に含まれるユーティリティのインストール方法や、他のマニュアルに記載されていない内容などが説明されています。インストールする前に必ずお読みください。
この冊子では、特別に記載がない限り、AXIS NetPilot (v2.63J)、AXIS Print Monitor (v3.011J)、および axinstall (1.8.3) に適用されます。

1.1. 商標について

AIX、Apple、DOS、EtherTalk、Ethernet、HP、HP JetAdmin、IBM、LAN Server、Macintosh、Microsoft、Novell NetWare、OS/2、PostScript、UNIX、Windows は、各社の登録商標または商標です。その他、本冊子に記載のプログラム、パソコン、規格などの商品名、製品名は一般的に各社の登録商標または商標です。

AXIS 5800 補足資料 (第 1 版) Copyright(C) アクシスコミュニケーションズ株式会社 2001 年 9 月

2.AXIS NetPilot ・ AXIS Print Monitor

「AXIS NetPilot」をインストール（使用）するためには、IPX、または NetBEUI プロトコルの組み込まれた Windows 環境 (Windows 95、Windows 98、Windows NT、Windows Me) が必要です。また、「AXIS Print Monitor」をインストール（使用）するためには NetBEUI、または TCP/IP プロトコルの組み込まれた Windows 環境 (Windows 95、Windows 98、Windows Me) が必要です。「AXIS Print Monitor」は Windows 95 ・ Windows 98 ・ Windows Me（ピアツーピア）専用のユーティリティです。

2.1. インストール

インストール方法は以下の手順にしたがって行なってください。以下の例では PC/AT 互換 (DOS/V) 機上の Windows Me 環境に「AXIS NetPilot」、「AXIS Print Monitor」をインストールします。

注意：すでに前のバージョンの「AXIS Print Monitor」をインストールしている場合は、まず使用中の「AXIS Print Monitor」を削除し、そのあと新しい「AXIS Print Monitor」をインストールしてください。「AXIS Print Monitor」の削除は「コントロールパネル」の中の「アプリケーションの追加と削除」から行なうことができます。

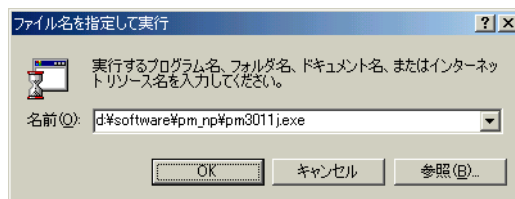
標準インストールとカスタムインストール

インストール方法は、以下の 2 種類です。

- 「標準」インストールでは「AXIS Print Monitor」のみインストールされます。一般ユーザの PC にインストールする場合は、「標準」インストールを選択します。（「標準インストールではインストール先ディレクトリなどの選択はできません。）
- 「カスタム」インストールでは「AXIS NetPilot」、および「AXIS Print Monitor」の各ユーティリティを必要に応じてインストールすることができます。「カスタム」インストールではインストールするディレクトリ、スタートメニュープログラムグループを選択することもできます。

2.2. インストールの開始

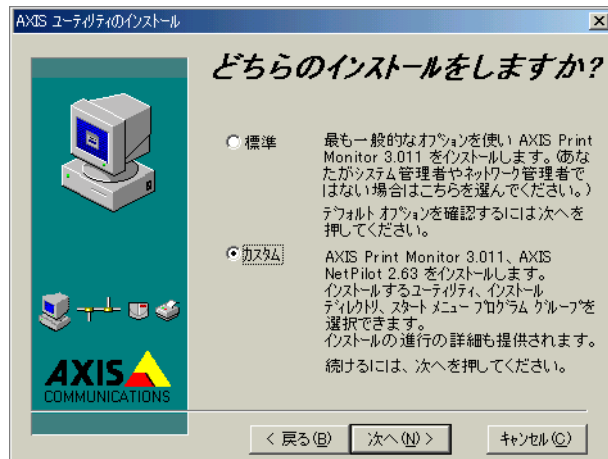
1. まずはじめに、CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入します。
2. Windows Me の「スタート」ボタンをクリックし、次に「ファイル名を指定して実行」をクリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。



3. 「名前：」ボックスに「d:\software\pm_np\pm3011j.exe」と入力します。ここで、「d」は、お使いの CD-ROM ドライブに割り当てられている文字に置き換えてください。
4. 「OK」ボタンをクリックします。セットアッププログラムが起動します。
5. 「ようこそ」ダイアログの内容を確認し、「次へ」ボタンをクリックします。



6. 「どちらのインストールをしますか？」ダイアログボックスでは、「標準」インストール、または「カスタム」インストールを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。（デフォルトは「標準」インストールです。）この例では「カスタム」インストールを選択します。



7. 「インストール済みのコンポーネント」ダイアログでは、既存の「AXIS NetPilot」、「AXIS Print Monitor」、「AXIS Print Utility for Windows」を検出します。「AXIS Print Monitor」、および「AXIS Print Utility for Windows」が検出された場合は、一度インストールを終了し、既存のユーティリティを削除してから、再度インストールしてください。

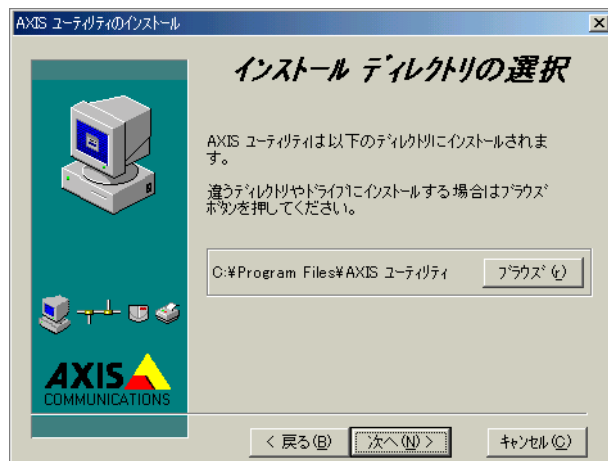


注意：「AXIS Print Utility for Windows」は OS/2 環境で使用する印刷用ユーティリティです。詳しくは、Axis のホームページを参照してください。
<http://www.axiscom.co.jp/>

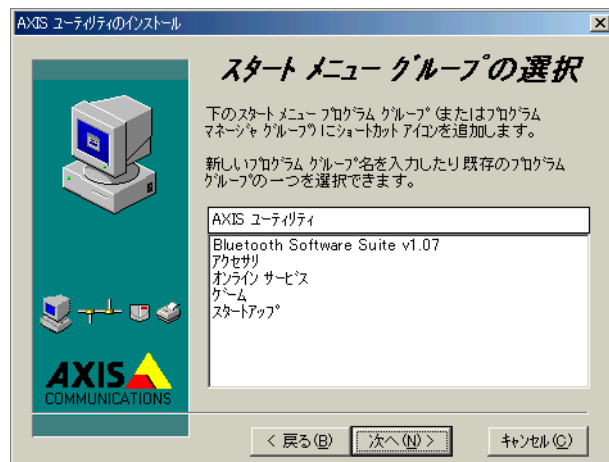
8. 「コンポーネントの選択」ダイアログボックス（カスタムインストールのみ）では、インストールするユーティリティを選択します。ダイアログの内容を確認し、必要なユーティリティを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。この例では、「AXIS NetPilot」、および「AXIS Print Monitor」をそれぞれ選択しています。



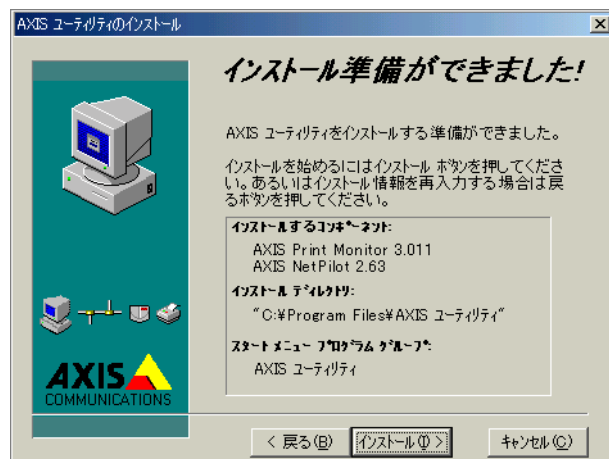
9. 「インストールディレクトリの選択」ダイアログでは、ユーティリティをインストールするディレクトリを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。「ブラウズ」ボタンをクリックして、インストールするディレクトリを変更することも可能です。



10. 「スタート」メニューに登録するグループを設定し、「次へ」ボタンをクリックします。



11. 「インストールの準備ができました」ダイアログでは、各ダイアログで設定したインストール情報を確認します。インストールする場合は、「インストール」ボタンをクリックします。インストール情報を再入力する場合は、「戻る」ボタンをクリックします。

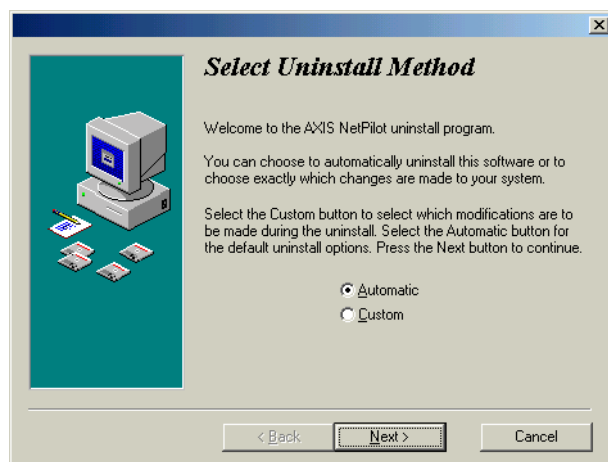


12. インストールが正常に終了すると「インストールが正常に完了しました」ダイアログが表示されます。「閉じる」ボタンをクリックしてインストール作業を終了します。

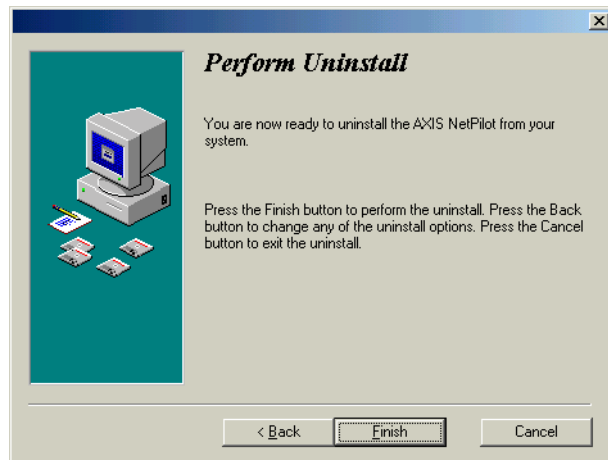


2.3. アンインストール

1. 「AXIS NetPilot」、および「AXIS Print Monitor」をアンインストールするためには、「コントロールパネル」の中の「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
2. 「アプリケーションの追加と削除」ダイアログが表示されます。「AXIS NetPilot」、または「AXIS Print Monitor」を選択し、「追加と削除」ボタンをクリックします。
3. 表示されるダイアログで、「Automatic」を選択し、「Next」ボタンをクリックします。この例では、「AXIS NetPilot」を選択しています。



4. 最後に「Finish」ボタンをクリックして、アンインストールを開始します。

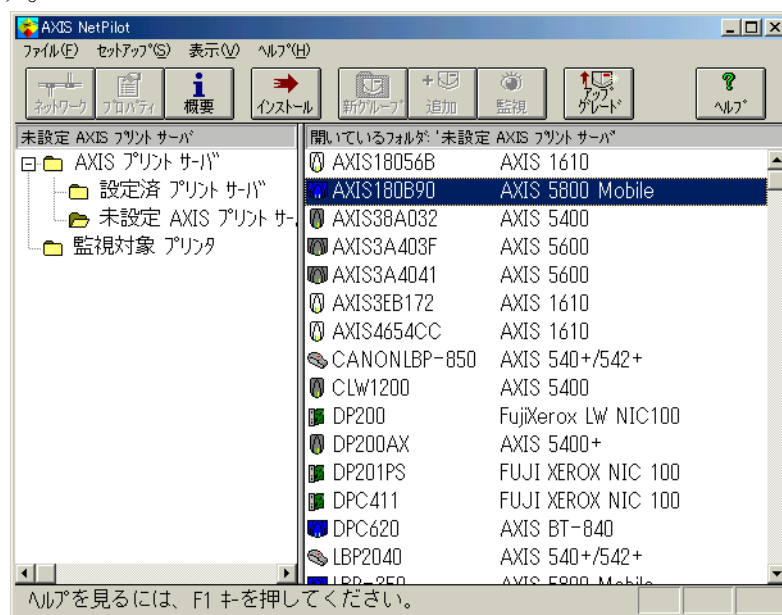


3.AXIS NetPilot の使い方

「AXIS NetPilot」では Axis プリントサーバのインストールと管理を行なうことができます。

3.1.AXIS NetPilot の起動

「スタート」 ボタンをクリックし、メニューの「プログラム」－「AXIS ユーティリティ」－「NetPilot」－「AXIS NetPilot」を選択します。



3.2. 画面構成と各メニュー

- メインウィンドウ
- ・ メインウィンドウの左側は、まだインストールしていない新しい Axis プリントサーバ（「未設定 Axis プリントサーバ」フォルダ）、すでにインストールした Axis プリントサーバ（「設定済 プリントサーバ」フォルダ）の両方を含む「AXIS プリントサーバフォルダと、監視するプリンタを含む監視対象プリンタ」フォルダを表示します。これらのフォルダは、ダブルクリックするか、「+」、「-」ボックスをクリックすることにより開いたり、閉じたりします。
 - ・ メインウィンドウの右側は、左側の各フォルダに属する Axis プリントサーバ、またはプリンタを表示します。Axis プリントサーバの操作をする場合は、対象となるプリントサーバアイコンをクリックし、「ファイル」メニュー、ツールバー、「ポップアップ」メニューから必要な操作を行ないます。

- ・ 淡色表示されたプリントサーバは、プリントサーバとの接続が失われたこと、例えばプリントサーバがネットワークから切断されたことを示します。メインウィンドウからプリントサーバの表示を消したい場合は、そのアイコンを選択し、「ファイル」メニューのなかの「オブジェクトの削除」を選択します。

使用例 1 「インストレーションウィザード」を利用して新しい Axis プリントサーバをインストールする。

1. 「未設定 AXIS プリントサーバ」フォルダを表示します。
2. 「未設定 AXIS プリントサーバ」フォルダをクリックし、インストールする Axis プリントサーバの名前 (AXISnnnnnnn) をクリックします。
3. 「セットアップ」メニューの「インストール」、ツールバーの「インストール」ボタン、または Axis プリントサーバをクリックしてから、マウスの右ボタンをクリックし、「ポップアップ」メニューから「インストール」のいずれかを選択します。

使用例 2 「プロパティページ」を使用して Axis プリントサーバの設定を変更する。

1. 「設定済プリントサーバ」フォルダを表示します。
2. 「設定済プリントサーバ」フォルダをクリックし、設定を変更したい Axis プリントサーバの名前 (AXISnnnnnnn) をクリックします。複数台の Axis プリントサーバの同じパラメータを 1 度に変更することもできます。
3. 「セットアップ」メニューの「プロパティ」、ツールバーの「プロパティ」ボタン、または Axis プリントサーバをクリックしてから、マウスの右ボタンをクリックし、「ポップアップ」メニューから「プロパティ」のいずれかを選択します。

注意： nnnnnnn はプリントサーバのシリアル番号の下 6 桁の英数字です。

3.2.1. ファイルメニュー

「ファイル」メニューには以下のオプションが含まれます。これらのオプションは、ツールバー、「ポップアップ」メニューからも利用できます。

オプション名	機能
概要	選択したプリントサーバの「概要」ウィンドウを表示します。

プリントジョブ	最後の 10 個のプリントジョブの状態を表示する「プリントジョブ」ウィンドウを表示します。
プリンタ情報	選択したプリンタの「プリンタ情報」ウィンドウを表示します。
新しいプリントサーバグループ	「AXIS プリントサーバ」フォルダにプリンタグループを追加します。
プリントサーバの追加	選択したプリントサーバグループにプリントサーバを追加します。
新しいプリンタグループ	監視対象プリンタフォルダにプリンタグループを追加します。
プリンタの追加	選択した「プリンタ監視グループ」にプリンタを追加します。
監視	選択したプリンタグループ用の独立した「監視」ウィンドウを表示します。
名前の変更	選択したプリントサーバの名前を変更します。
再起動	選択したプリントサーバを再起動します。(電源の OFF/ON と同じです。)
オブジェクトの削除	プリンタ監視グループから、選択したプリンタを削除します。
グループの削除	選択したプリンタ監視グループを削除します。グループは空でなければなりません。グループの各プリンタを選択し、グループが空になるまで「オブジェクトの削除」オプションを使用し、「グループ」フォルダを選択して「グループの削除」オプションを使用します。
終了	NetPilot を終了します。変更した設定パラメータはプリントサーバに保管されます。

3.2.2. セットアップメニュー

「セットアップ」メニューには以下のオプションが含まれます。これらのオプションは、ツールバー、「ポップアップ」メニューからも利用できます。

オプション名	機能
ネットワーク	選択した Axis プリントサーバの各ネットワーク環境内での設定を変更します。
プロパティ	選択した Axis プリントサーバの設定を変更します。
インストール	選択した Axis プリントサーバのインストールを開始します。事前に他の方法で設定したパラメータの値は「インストーレーションウィザード」の中で反映されます。
アンインストール	選択した Axis プリントサーバのパラメータ設定を工場出荷時の状態に戻します。また、NetWare 環境下ではプリントキューとの接続も解除します。（リモートプリンタキューを除く）Axis プリントサーバは「未設定 AXIS プリントサーバ」フォルダに移動します。「アンインストール」オプション実行後、再インストールせずに元の状態に戻すことはできません。
アップグレード	新しい Axis プリントサーバ・ソフトウェアを使用して、1 つ、または複数の Axis プリントサーバのアップグレードを行います。 アップグレード機能を利用するためには IPX/SPX プロトコルが必要です。
パラメータリストの編集	パラメータリストエディタを起動します。このエディタを使用してすべてのプリントサーバのパラメータを編集し、プリントサーバへアップロードすることができます。また、パラメータリストをファイルに保存したり、一括してアップロードすることもできます。

3.2.3. 表示メニュー

「表示」メニューには以下のオプションが含まれます。これらのオプションは、ツールバー、「ポップアップ」メニューからも利用できます。

オプション名	機能
ツールバー	ツールバーの表示・非表示を切り替えます。
ステータスバー	メインウィンドウの一番下にある情報フィールドの表示・非表示を切り替えます。
すべて選択	メインウィンドウの右側部分がアクティブのとき、表示されているすべての Axis プリントサーバを選択します。
ソート	すべてのプリントサーバ、およびプリンタフォルダを次のようにソートします。 - プリントサーバを名前、またはモデル名でソートします。ソートするプリントサーバフォルダをクリックし、ドロップダウンメニューから希望するソート方法を選択します。 - プリンタを名前、状態、またはプリントサーバでソートします。ソートするプリンタフォルダをクリックし、ドロップダウンメニューから希望するソート方法を選択します。 注意：起動時に NetPilot はすべてのフォルダを自動的に名前でソートします。
リフレッシュ	ネットワーク中の Axis プリントサーバをただちに検索します。

更新間隔の設定	「更新間隔」ダイアログを使用すると、プリントサーバとプリンタの状態を探索する時間間隔を設定することができます。 プリントサーバの自動検索 「有効にする」チェックボックスをクリックして、検索の有効・無効を切り替えます。ネットワークの検索中は、PC が 1 秒以上ロックされます。 「間隔」ボックスにはプリントサーバを自動検索する時間間隔（単位：秒）を入力します。範囲は 15 ～ 63267 秒（63267 秒 = 約 17 時間 34 分）です。 プリンタの監視 「間隔」ボックスはプリンタ監視情報の表示を更新するための時間間隔を入力します。範囲は 5 ～ 63267 秒（63267 秒 = 約 17 時間 34 分）です。
---------	---

3.2.4. ツールバー

ツールバーは「ファイル」、「セットアップ」、「表示」、「ヘルプ」メニューのすぐ下に表示されます。表示されない場合は、「表示」メニューの「ツールバー」オプションを選択してください。

オプション名	機能
ネットワーク	選択した Axis プリントサーバの各ネットワーク環境内での設定を変更します。
プロパティ	選択した Axis プリントサーバの設定を変更します。
概要	選択した Axis プリントサーバの「概要」ウィンドウを表示します。
インストール	選択した Axis プリントサーバについて、「インストレーションウィザード」を起動します。

新グループ プリントサーバの追加 プリンタの追加	プリントサーバのアイコンのついた「新グループ」ボタン、およびプリントサーバのアイコンのついた「新グループ」ボタンは、それぞれの機能がアクティブのときにのみ表示されます。詳細は「ヘルプ」を参照してください。
監視	選択するプリンタグループ用の独立した「監視」ウィンドウを表示します。
アップグレード	「アップグレードウィザード」を起動します。このウィザードは、新しいプリントサーバ・ソフトウェアを1台、または複数台の Axis プリントサーバへダウンロードするために使用します。アップグレード機能を利用するためには、IPX/SPX プロトコルが必要です。
ヘルプ	ヘルプの目次ページを表示します。

3.3.Axis プリントサーバのインストール（設定）

「インストレーションウィザード」を実行するとインストールしたいネットワーク環境に新しい Axis プリントサーバを簡単にインストールすることができます。「インストレーションウィザード」実行後はすぐに Axis プリントサーバを使えるようになります。

Axis プリントサーバの設定を変更するために、再度「インストレーションウィザード」を実行する必要はありません。各設定は、「セットアップ」メニューの「ネットワーク」、または「プロパティ」オプションを使用して変更することができます。

以下の例では PC/AT 互換 (DOS/V) 機上に Novell 社の「Novell Client for Windows 95/98/Me Ver 3.3」をインストールした Windows Me 環境でインストールを行ないます。

注意： NetWare 環境へ Axis プリントサーバをインストールするためには事前にネットワーク管理者権限で NetWare 環境にログインする必要があります。例えば、NetWare3.xJ では「supervisor」、NetWare4.1xJ では「admin」でログインします。また、「AXIS NetPilot」を実行するクライアントマシンは利用する NetWare 環境（NDS、bindery）にアクセスする必要があります。

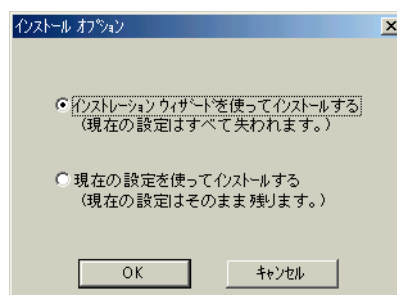
NetPilot の起動

1. NetPilot を起動します。必要であれば、「AXIS プリントサーバ」フォルダをクリックして、「未設定 AXIS プリントサーバ」フォルダを表示します。
2. 「未設定 AXIS プリントサーバ」フォルダをクリックし、インストールする Axis プリントサーバの名前 (AXISnnnnnnn) をクリックします。(nnnnnnn は Axis プリントサーバのシリアル番号の下 6 桁の英数字です。)
3. 「セットアップ」メニューの「インストール」、ツールバーの「インストール」ボタン、または Axis プリントサーバをクリックしてから、マウスの右ボタンをクリックし、「ポップアップ」メニューから「インストール」のいずれかを選択します。



インストールオプションの選択

- その環境内ではじめて、その Axis プリントサーバをインストールする場合は、「インストレーションウィザード」を使ってインストールする」を選択します。
 - すでに、他の方法、または他の PC 上にインストールした NetPilot でその Axis プリントサーバを設定し、今回起動している NetPilot に Axis プリントサーバを登録する場合は、「現在の設定を使ってインストールする」を選択します。
- 選択後、「OK」ボタンをクリックします。



Axis プリントサーバの名前の設定

Axis プリントサーバに設定する名前を入力するか、デフォルトの名前「AXISnnnnnnn」(nnnnnnn はシリアル番号の下 6 桁の英数字)をそのまま使用し、「次へ」ボタンをクリックします。



- この名前はユーザが Axis プリントサーバを見分けるのに使われます。また、プリンタ、プリントキューの名前の一部として使用されます。したがって、エンドユーザにとってわかりやすいように、場所や使い方を反映した名前をつけることをお勧めします。
- 設定後、NetPilot の「ファイル」メニューの「名前の変更」オプションで名前を変更することもできます。

注意：「名前の変更」オプションでは NetWare 環境でのプリントサーバ名のみが変更されます。「Windows、OS/2 環境」、および「AppleTalk 環境」でのプリンタ名、プリントキュー名は変更されません。

ネットワーク環境の設定

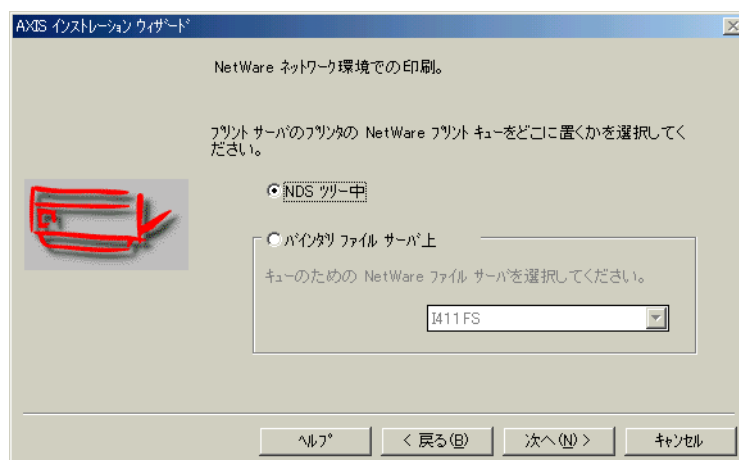
このページでは利用可能なネットワーク環境がすべて選択された状態で表示されます。チェックボックスの中のチェックを外すことで、チェックを外したネットワーク環境で利用できないようにすることもできます。設定後、「次へ」ボタンをクリックします。



- ネットワークの負荷の低減、および利用するプロトコルのパフォーマンスを増大するためにも不要なプロトコルは外すことをお勧めします。インストール終了後でも「プロパティページ」を使用して不要なプロトコルを無効にすることもできます。
- NetPilot を起動している PC に NetWare プロトコルがインストールされていない場合、または NetWare ファイルサーバがそのネットワーク上に存在しない場合は、「NetWare」チェックボックスは選択できません（淡色表示になります）。
- インストール後、その Axis プリントサーバのネットワーク環境設定は、「ネットワーク」オプションを使用して変更することができます。メインウィンドウの中の設定を変更したい Axis プリントサーバを選択し、ツールバーの「ネットワーク」ボタン、または「プロパティ」ボタンをクリックします。変更できる項目は各ボタンに依存します。

NetWare 環境での設定

Axis プリントサーバが接続するプリントキューの場所（環境）を設定し、「次へ」ボタンをクリックします。

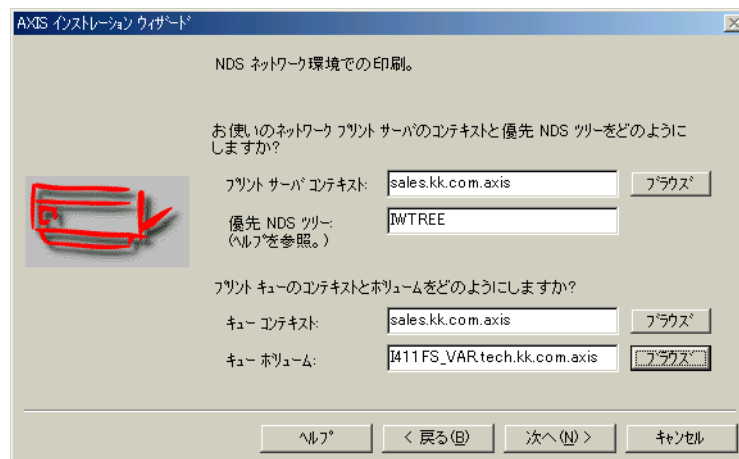


各パラメータの説明

NDS ツリー中	このオプションは NDS 対応 Axis プリントサーバのインストール中に、ネットワークで NetWare4.1x が利用できる場合だけ使用できます。このオプションを選択した場合、次のウィザード画面で Axis プリントサーバの NDS ツリーのノードを入力する必要があります。
バインダリ ファイルサーバ上	NetWare3.xx 環境ではこのオプションを選択します。また、NetWare4.1x 環境下でバインダリサービスを利用する場合も、このオプションを選択します。 次に、プリントキューを作成するファイルサーバをドロップダウンリストの中から選択します。

NetWare NDS
ネットワーク環境
の設定

Axis プリントサーバを置くプリントサーバコンテキスト、Axis プリントサーバがログインする NDS ツリー、プリントキューを置くコンテキスト、キューボリュームを置くコンテキストをそれぞれ設定し、「次へ」ボタンをクリックします。「ブラウズ」ボタンをクリックして階層ブラウザから選択することもできます。



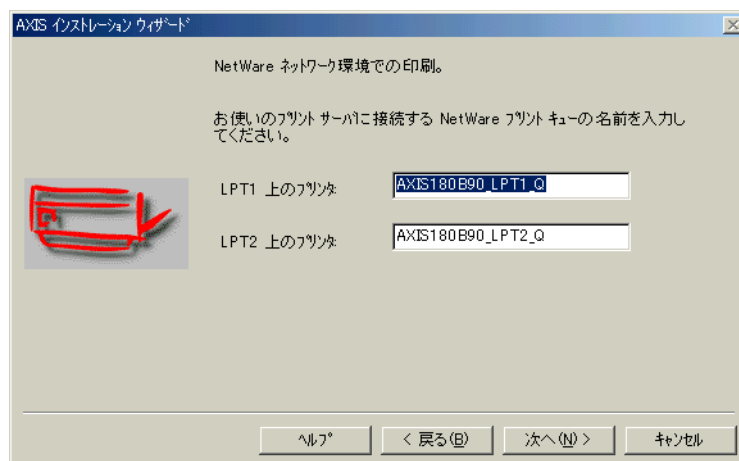
各パラメータの説明

プリントサーバ コンテキスト	Axis プリントサーバを置くコンテキストを入力します。「ブラウズ」ボタンをクリックしてコンテキストを選択することも可能です。
-------------------	---

優先ファイルサーバ	ドロップダウンリストを使用して優先ファイルサーバの名前を選択します(このファイルサーバ上のアカウントを1つ消費します)。 注意: このパラメータは、拡張 NDS 機能をサポートする Axis プリントサーバには表示されません。
優先 NDS ツリー	このパラメータは拡張 NDS 機能をサポートする Axis プリントサーバだけに表示されます。Axis プリントサーバがログインする NDS ツリーを選択します。特定のファイルサーバにログインさせたい場合は、インストール後、「セットアップ」メニューの「ネットワーク」オプションで設定することができます。
キューコンテキスト	プリントキューを置くコンテキストを入力します。「ブラウズ」ボタンをクリックしてコンテキストを選択することもできます。
キューボリューム	キューボリュームを置くコンテキストを選択します。

NetWare プリントキューの設定

Axis プリントサーバと接続させたいキューの名前を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。



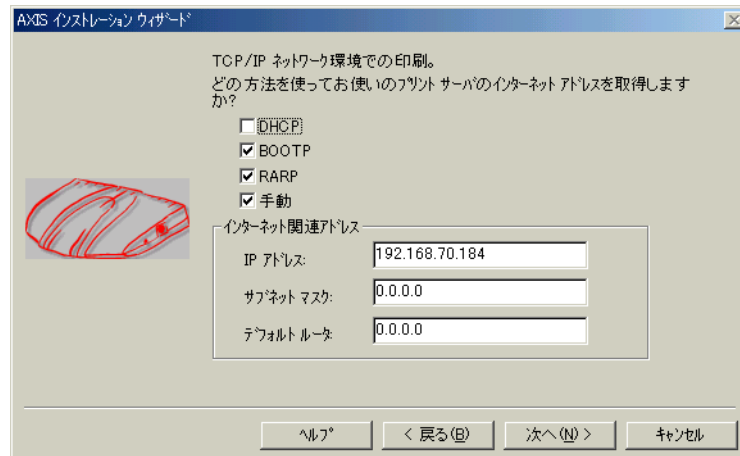
- Axis プリントサーバの各機種が持つプリンタポートの数だけ表示されます。
- この名前はユーザがプリンタを選択するときに表示されます。したがって、機種やプリンタの場所などのわかりやすい名前を設定すると便利です。
- デフォルトの名前は Axis プリントサーバ名と LPT1、LPT2 の各プリンタポートから与えられます。
- プリントキューのフィールドをブランクのままにしておいた場合、プリントキューは作成されません。また、「セットアップ」メニューなどから「ネットワーク」オプションを選択し、

「NetWare」タブを表示させても、プリントキューはプリンタポートに接続されていません。

- プリントキューの接続、および解除は、インストール後「セットアップ」メニュー、または「ポップアップ」メニューから行なうことができます。

TCP/IP 環境での設定

IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトルータなどの設定をし、「次へ」ボタンをクリックします。



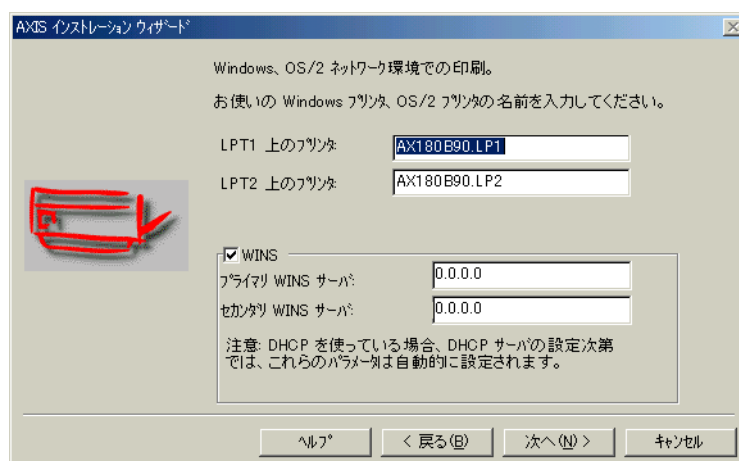
各パラメータの説明

DHCP:/BOOTP	DHCP、および BOOTP チェックボックスを選択すると、Axis プリントサーバの起動時に IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトルータを自動的に更新します。したがって、対応する各フィールドは手動では設定することができなくなります。また、「プロパティページ」では淡色表示になります。
RARP	このチェックボックスを選択すると、RARP が有効になります。この機能は BOOTP や DHCP とほぼ同じですが、自動的に更新されるのは IP アドレスだけです。RARP を有効にすると、IP アドレスは手動で設定できなくなり、「プロパティページ」では淡色表示されます。
手動	DHCP、BOOTP、または RARP が使用できないか、または使うのが好ましくない場合は、このチェックボックスを選択します。このオプションを有効にした場合は IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトルータを手動で入力します。

IP アドレス	Axis プリントサーバに設定する IP アドレスを入力します。このアドレスは他のネットワーク機器と重複しないようにしなければなりません。
サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。 例えば、クラス C のサブネットマスクは 255.255.255.0 になります。デフォルトの値「0.0.0.0」を設定した場合、自動ルータ検知機能を使用することを意味します。
デフォルトルータ	デフォルトルータの IP アドレスを入力します。デフォルトの値「0.0.0.0」を設定した場合、デフォルトルータは設定されません。

Windows・OS/2 環境での設定

Axis プリントサーバと接続させたいキューの名前を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。



各パラメータの説明

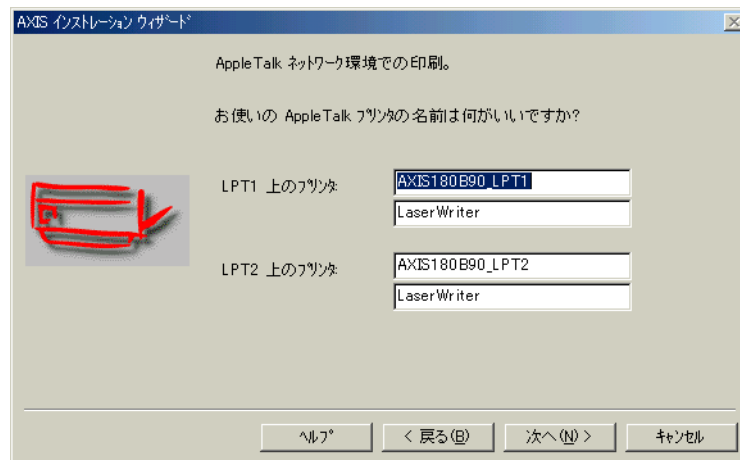
WINS	このチェックボックスをチェックすると WINS サポートが有効になり、自動的に WINS サーバにホスト名と IP アドレスを登録できます。WINS サポートを無効にしたい場合は、チェックボックスをクリアします。
------	--

プライマリ WINS サーバ	WINS プロトコルが有効な場合、プライマリ WINS サーバの IP アドレスを入力します。ただし、プライマリ WINS サーバの IP アドレスを DHCP サーバからダウンロードする場合を除きます。DHCP が有効でなくても、WINS は使用できます。
セカンダリ WINS サーバ	WINS プロトコルが有効な場合、セカンダリ WINS サーバの IP アドレスを入力します。ただし、セカンダリ WINS サーバの IP アドレスを DHCP サーバからダウンロードする場合を除きます。DHCP が有効でなくても、WINS は使用できます。

- **Axis** プリントサーバの各機種が持つプリンタポートの数だけ表示されます。
- この名前はユーザがプリンタを選択するときに表示されます。したがって、機種やプリンタの場所などのわかりやすい名前を設定すると便利です（**注意**：プリンタポート名は、MS-DOS のファイル名規則（8+3 文字）にしたがってください）。
- プリンタポートのフィールドをブランクのままにしておいた場合、プリンタポートはインストールされません。また、「セットアップ」メニューなどから「ネットワーク」オプションを選択し、「Windows、OS/2」タブを表示させても「Windows プリンタ、OS/2 プリンタ」リストにプリンタ名は追加されません。
- デフォルトの名前は **Axis** プリントサーバ名と LPT1、LPT2 の各プリンタポートから与えられます。
- インストール後、「セットアップ」メニュー、または「ポップアップ」メニューの「ネットワーク」の「ネットワーク」オプションを使用してプリンタ名を変更することができます。

AppleTalk 環境での設定

Axis プリントサーバと接続させたいキューの名前を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。

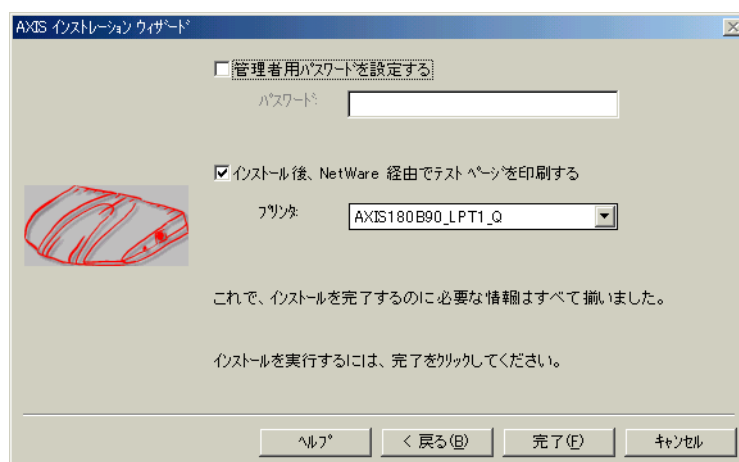


- Axis プリントサーバの各機種が持つプリンタポートの数だけ表示されます。
- この名前はユーザがプリンタを選択するときに表示されます。したがって、機種やプリンタの場所などのわかりやすい名前を設定すると便利です。
- デフォルトの名前は Axis プリントサーバ名と LPT1、LPT2 の各プリンタポートから与えられます。
- プリンタポートのフィールドを空白のままにしておいた場合、プリンタポートはインストールされません。また、「セットアップ」メニューなどから「ネットワーク」オプションを選択し、「AppleTalk」タブを表示させても、「AppleTalk プリンタ」リストにプリンタ名は追加されません。
- もし、必要ならばプリンタ・タイプを変更することができます。工場出荷時のデフォルトは「LaserWriter」です。

パスワードの設定とテストページの出力

必要であれば管理者用パスワードを設定し、テストプリントの出力先を選択し、「完了」ボタンをクリックします。この例ではパスワードを設定せずに、NetWare 経由でテストプリントを実行するように

しています。「プリンタ」には「AXIS297363_LPT1_Q」を選択しています。



各パラメータの説明

管理者用パスワードを設定する	Axis プリントサーバの設定ファイルにパスワードを設定し、アクセスを制限することができます（オプション）。パスワードを設定した場合、「プロパティページ」、「ネットワーク」ウィンドウにアクセスする前にパスワードを入力する必要があります。パスワードは「プロパティページ」を使用して変更することができます。パスワードを忘れた場合はAxis プリントサーバを工場出荷時の状態（設定）に戻す以外に解除する方法はありません。また、初期化後、再度インストールする場合は、以前設定したパラメータなどはすべて削除されます。
インストール後、NetWare 経由でテストページを印刷する	「完了」ボタンをクリックすると、NetWare 環境で選択したプリンタを経由してテストページを出力しようとします。このテストにより NetWare 環境でのインストールが正しく行なえたかどうか確かめることができます。また、テストページではウィザードを使用して設定した内容を確認することができます。

インストールの終了

インストールを終了するとダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックし、インストール作業を終了します。インストールした Axis プリントサーバは「未設定 AXIS プリントサーバ」フォルダから「設定済プリントサーバ」フォルダへ移動します。



3.4. ネットワーク環境の変更

「ネットワーク」ウィンドウを使用して簡単に Axis プリントサーバに関連するネットワーク環境の変更を行なうことができます。

注意：NetWare 環境の変更を行なうためには事前にネットワーク管理者権限で NetWare 環境にログインしている必要があります。例えば、NetWare3.xJ では「Supervisor」、NetWare4.1xJ では「admin」でログインします。また、NetPilot を利用するクライアントマシンは NetWare 環境（NDS、またはバインダリ）にアクセスする必要があります。

ネットワークウィンドウの表示

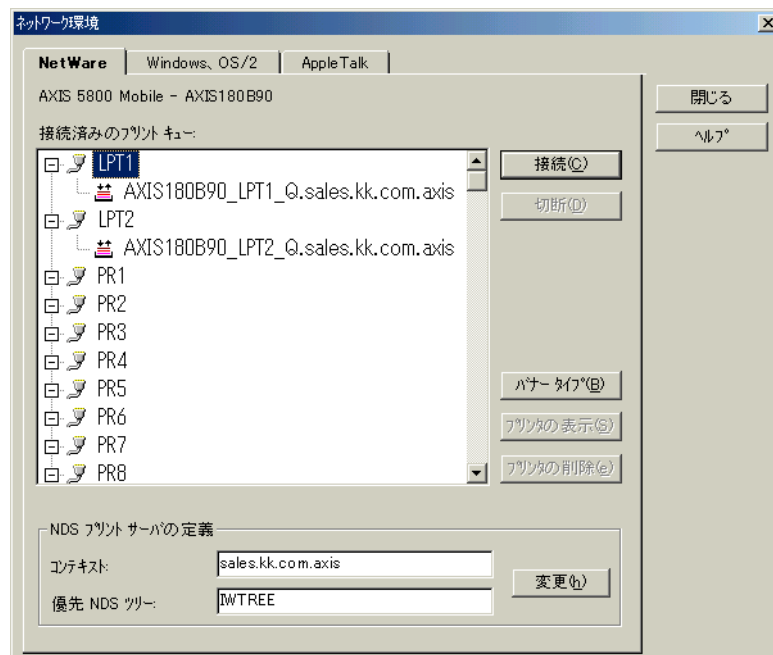
1. 必要であれば、メインウィンドウの中の「Axis プリントサーバ」フォルダをダブルクリックし、「設定済プリントサーバ」フォルダの中の AIXS プリントサーバを選択します。
2. 変更したい Axis プリントサーバのアイコンをクリックします。
3. 「セットアップ」メニューの中の「ネットワーク」、ツールバーの「ネットワーク」ボタン、または Axis プリントサーバをクリックしてから、マウスの右ボタンをクリックし「ポップアップ」メニューから「ネットワーク」のいずれかを選択します。

「ネットワーク」ウィンドウには、例えば、「NetWare」、「Windows、OS/2」、「AppleTalk」のように、選択した Axis プリントサーバの利用可能な環境に依存したいくつかのタブのついたページがあります。

3.4.1. NetWare 環境の変更

- ・ 「NetWare」ウィンドウでは、Axis プリントサーバに接続されているすべてのプリントキュー（プリントサーバモード）とすべての NetWare プリントサーバ（リモートプリンタモード）が表示されます。

- キューを参照するには、ユーザは対応するリソースにログインしている必要があります。



各ボタンの説明

接続	「NetWare プリントキューの接続」 Windows を表示します。
切断	Axis プリントサーバポートから選択したプリントキューの接続を解除します。
プリンタの表示	リモートプリンタモードで動作している Axis プリントサーバに接続されたプリンタの位置を表示します。「ネットワーク」ウィンドウを開くたびに、リモートプリンタ（NetWare プリントサーバ）がプリンタポート、プリントキューとは別のオブジェクトとして階層の一番下に表示されます。
プリンタの削除	リモートプリンタモードで動作しているプリンタを削除します。プリントキュー、Axis プリントサーバオブジェクト、プリンタオブジェクトが NetWare ファイルサーバから手動（NetPilot を使わずに）で削除された場合に使用します。「プリンタの削除」ボタンは「プリンタの表示」ボタンを使用してリモートプリンタを表示した後にしかクリックすることができません。

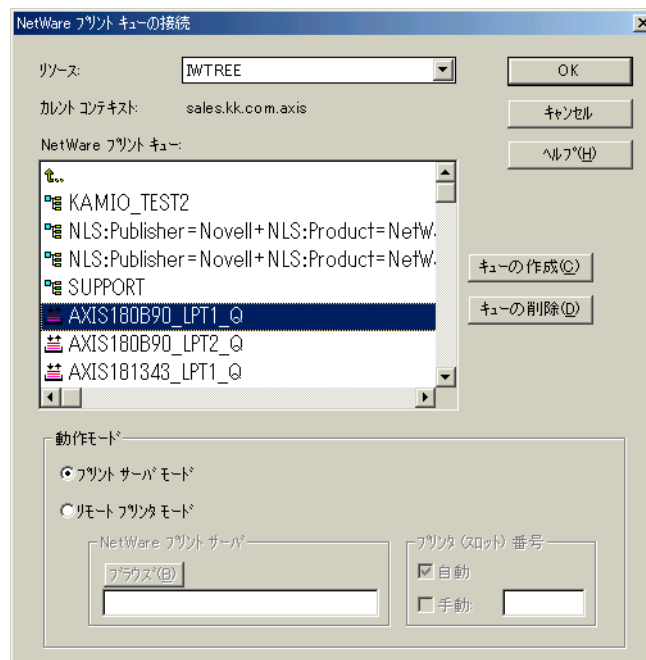
バナータイプ	バナーページの出力形式を「テキスト」、「PostScript」のいずれかに設定します。「バナータイプ」ボタンをクリックする前に、LPT1、LPT2 のいずれかを選択する必要があります。
コンテキスト：	ネットワーク構造の中のプリンタオブジェクトの場所を選択します。
優先 NDS ツリー	起動時にプリントサーバがログインする NDS ツリーを選択します。
優先 ファイルサーバ	起動時にプリントサーバがログインするファイルサーバを選択します。
変更	ファイルサーバを変更するには「変更」ボタンをクリックします。NDS ツリーにログインするための NDS プリントサーバの定義ダイアログが表示されます。

3.4.1.1. プリントキューの接続（プリントサーバモード）

ここでは、プリントキューをプリントサーバポートに接続する方法について説明します。通常、「インストレーションウィザード」で Axis プリントサーバを NetWare 環境にインストールすると、プリントサーバモードで接続することになります。

1. プリントサーバポート（LPT1、LPT2）アイコンをクリックします。
2. 「接続」ボタンをクリックして「NetWare プリントキューの接続」ウィンドウを表示します。
3. 「リソース」ボックスの矢印ボタンをクリックし、ドロップダウンリストの中からプリントキューを作成するファイルサーバ（NDS ツリー）を選択します。
4. 次のいずれかの方法で「NetWare プリントキュー」リストの中のプリントキューを選択します。
 - 既存のキューを選択
 - 「キューの作成」ボタンをクリックして、新しいプリントキューを作成
 - 「キューの削除」ボタンをクリックしてプリントキューを削除することもできます

5. 動作モードの中の「プリントサーバモード」を選択し、最後に「OK」ボタンをクリックします。

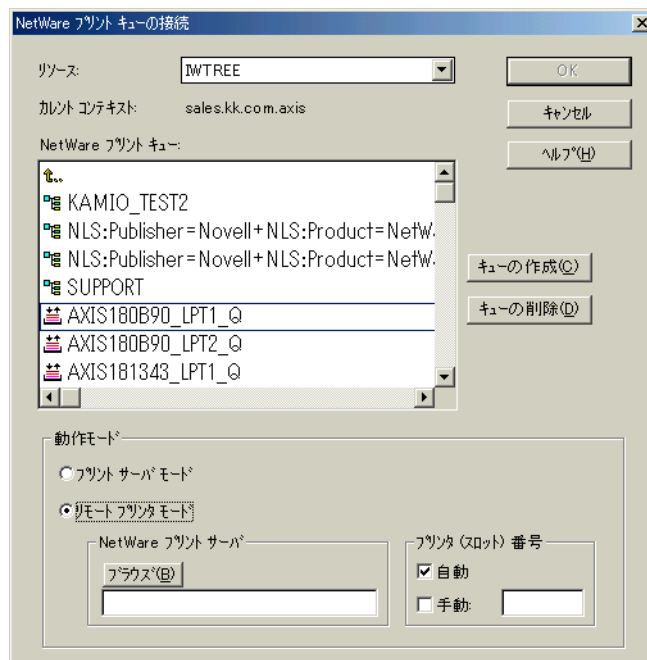


3.4.1.2. プリントキューの接続（リモートプリンタモード）

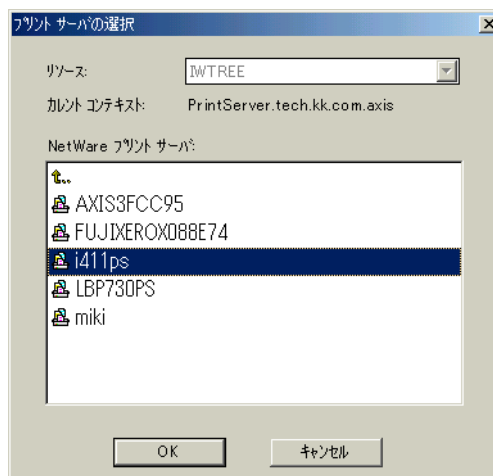
ここでは、リモートプリンタモードでの接続方法について説明します。最初に「インストレーションウィザード」を利用して Axis プリントサーバの設定（プリントサーバモード）を行ないます。

1. 「ネットワーク」ウィンドウの中の「NetWare」ウィンドウを開きます。
2. 既存のプリントキューを選択し、「切断」ボタンをクリックします。
3. プリントサーバポート（プリントキューを切断したポート）のアイコンを選択し、「接続」ボタンをクリックします。
4. 「NetWare プリントキューの接続」ウィンドウが表示されます。
5. 「リソース」ボックスの矢印ボタンをクリックし、ドロップダウンリストの中からプリントキューを作成するファイルサーバ（NDS ツリー）を選択します。
6. 次のいずれかの方法で「NetWare プリントキュー」リストの中のプリントキューを選択します。
 - 既存のキューを選択
 - 「キューの作成」ボタンをクリックして、新しいプリントキューを作成
 - 「キューの削除」ボタンをクリックしてプリントキューを削除することもできます

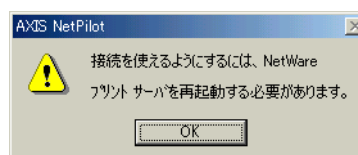
- 動作モードの中の「リモートプリンタモード」を選択し、プリンタ（スロット）番号パラメータを設定します。



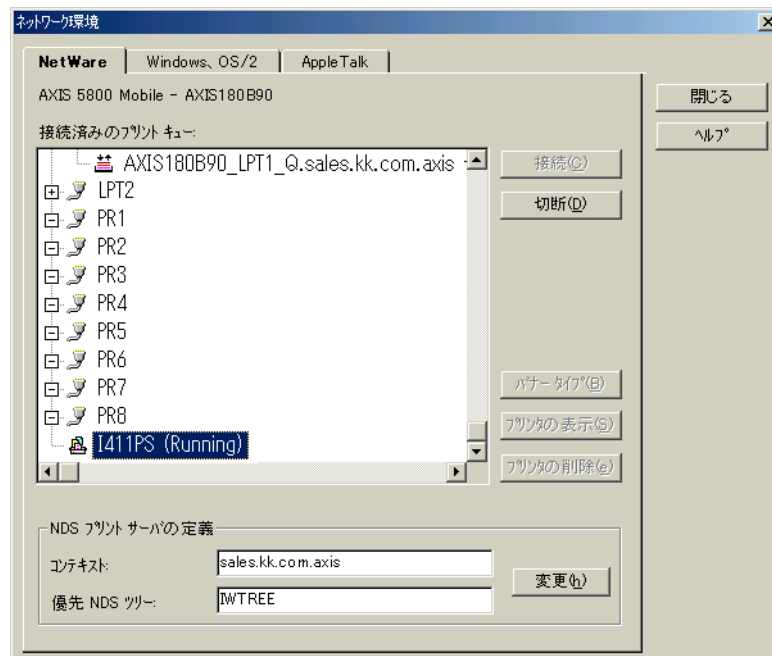
- 「ブラウズ」ボタンをクリックして、NetWare プリントサーバを選択します。



- 「NetWare プリントキューの接続」ウィンドウに戻り、「OK」ボタンをクリックします。
- 以下のダイアログが表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。NetPilot を終了し、NetWare プリントサーバを再起動します。



11. 再度、NetPilot を起動し、設定した Axis プリントサーバをダブルクリック、または「セットアップ」メニューの「ネットワーク」を選択します。「NetWare」ウィンドウには、NetWare プリントサーバが表示されます。

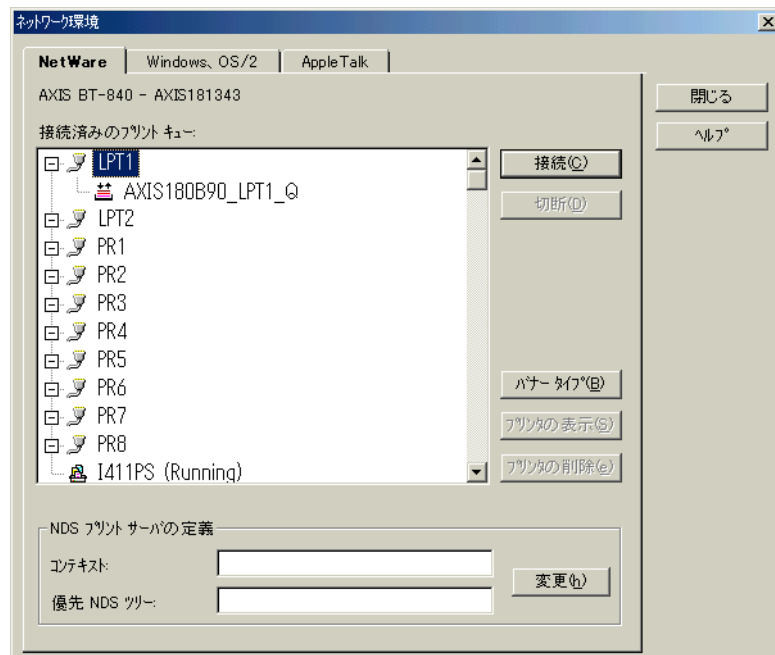


注意： NetWare プリントサーバに Axis プリントサーバが接続しない場合は、Axis プリントサーバの電源を OFF/ON してみてください。

3.4.1.3. リモートプリンタモード（NetWare4.1xJ・バインダリ接続）

ここでは、NetWare4.1xJ・バインダリ接続における、リモートプリンタモードでの接続方法について説明します。最初に「インストーレーションウィザード」を利用して Axis プリントサーバの設定（バインダリ接続・プリントサーバモード）を行ないます。

1. 「ネットワーク」ウィンドウの中の「NetWare」ウィンドウを開きます。



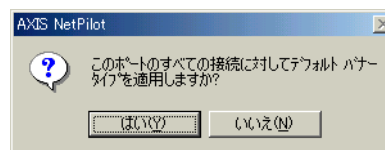
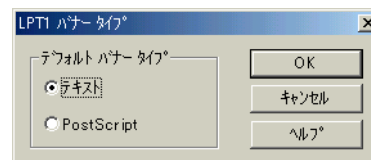
2. 既存のプリントキューを選択し、「切断」ボタンをクリックします。
3. 「3.4.1.2. プリントキューの接続（リモートプリンタモード）」の手順にしたがって、リモートプリンタモードの設定を行いません。
4. 「NetWare アドミニストレータ」を起動します。
5. プリントサーバ、プリントキューをインストールしたバインダリコンテキストに移動し、「NetWare アドミニストレータ」の「オブジェクト」メニューから「作成」を選択します。
6. 「新しいオブジェクトクラス」ダイアログの「オブジェクトクラス」リストボックスから「プリンタ」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
7. 「プリンタの作成」ウィンドウの「プリンタ名」に任意の名前を入力し、「作成」ボタンをクリックします。
8. コンテキストの中の「7.」で作成したプリンタオブジェクトをダブルクリックします。
9. 「プリンタ」ウィンドウの「割り当て」ボタンをクリックし、「追加」ボタンをクリックします。
10. NetPilot などで作成したプリントキューを選択し、「OK」ボタンをクリックします。
11. 「OK」ボタンをクリックし、「プリンタ」ウィンドウを閉じます。
12. コンテキストの中の NetWare プリントサーバをダブルクリックします。
13. 「プリントサーバ」ウィンドウの「割り当て」ボタンをクリックし、「追加」ボタンをクリックします。

14. 「7.」で作成したプリンタ（オブジェクト）を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
15. 「OK」ボタンをクリックし、「プリントサーバ」ウィンドウを閉じます。

注意：NetWareプリントサーバにAxisプリントサーバが接続しない場合は、Axisプリントサーバの電源をOFF/ONしてみてください。

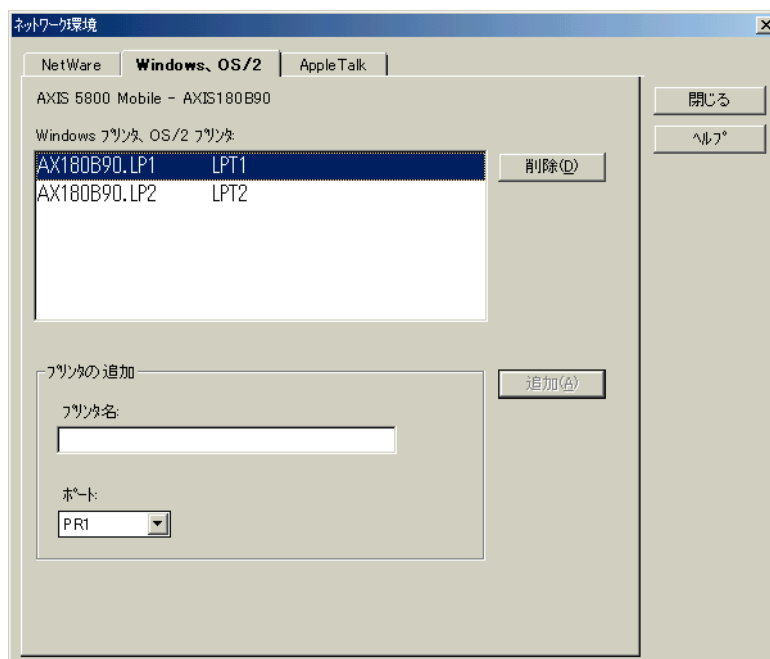
3.4.1.4. バナータイプの変更

「NetWare」ウィンドウの中の「バナータイプ」ボタンをクリックすることにより NetWare の見出しページの種類を「テキスト」、または「PostScript」に設定（変更）することができます。



3.4.2.Windows、OS/2 環境の変更

- Axis プリントサーバに接続できるプリンタの台数は、使用できるポート数で制限されます。ただし、論理プリンタ機能により、ユーザには実際より多くのポートがあるように見えることがあります。
- 各論理プリンタと物理プリンタには、個別に名前を付けることができます。これは、Windows、または OS/2 ワークステーションからプリンタを選択するときに、ユーザに表示されるプリンタ名です。
- 最高 2 台のプリンタとして名前がつけられます。



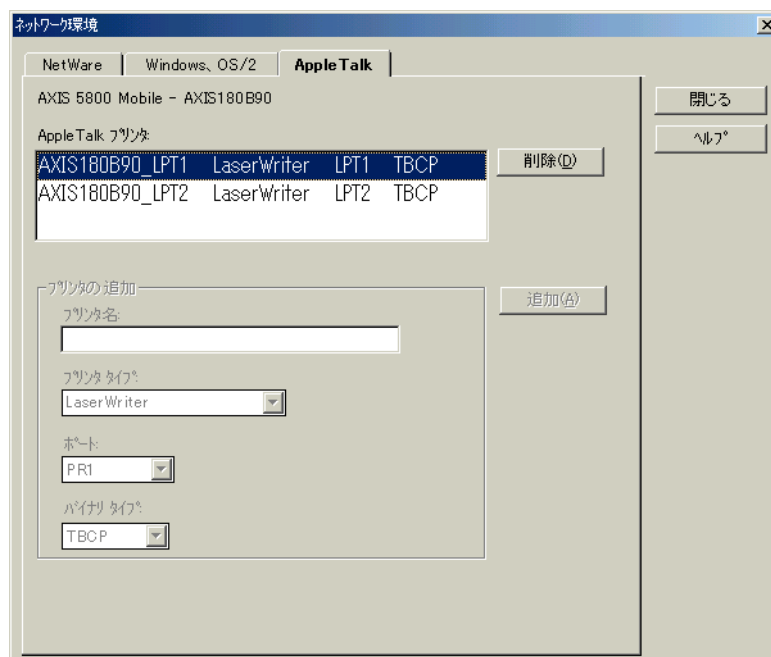
各ボタンの説明

削除	既存のプリンタ名を削除します。削除するにはウィンドウの中のプリンタをクリックし、さらに「削除」ボタンをクリックします。
追加	新しいプリンタを利用可能にします。 - 適切なプリンタ名を入力します。(8+3 形式) - プリンタを接続するポート (LPT1、LPT2) を選択するか、ドロップダウンリストから論理プリンタ (PR1 ～ PR8) を選択します。 - このプリンタを利用可能なプリンタのリストに追加するために「追加」ボタンをクリックします。

注意：「追加」ボタンは、上記のすべての選択を行なうまで、淡色表示になっています。追加できるプリンタの最大数を超えた場合も「追加」ボタンはクリックできなくなります。この場合は、新しいプリンタを追加する前に、既存のプリンタのどれかを削除してください。

3.4.3.AppleTalk 環境の変更

- Axis プリントサーバに接続できるプリンタの台数は、使用できるポート数で制限されます。ただし、論理プリンタ機能により、ユーザには実際より多くのポートがあるように見えることがあります。
- 各論理プリンタと物理プリンタには、個別に名前を付けることができます。これは、Apple コンピュータからプリンタを選択するときに、ユーザに表示されるプリンタ名です。
- プリントサーバの機種に依存して、最高2台、または3台のプリンタとして名前がつけられます。



各ボタンの説明

削除	既存のプリンタ名を削除します。削除するにはウィンドウの中のプリンタをクリックし、さらに「削除」ボタンをクリックします。
追加	新しいプリンタを利用可能にします。 1. 適切なプリンタ名を入力します。 2. プリンタを接続するポート (LPT1、LPT2) を選択するか、ドロップダウンリストから論理プリンタ (PR1 ～ PR8) を選択します。 3. プリンタタイプをリストの中から選択するか、または新しい適切なプリンタタイプを入力します。 4. このプリンタを利用可能なプリンタのリストに追加するために「追加」ボタンをクリックします。

注意：「追加」ボタンは、上記のすべての選択を行なうまで、淡色表示になっています。追加できるプリンタの最大数を越えた場合も「追加」ボタンはクリックできなくなります。この場合は、新しいプリンタを追加する前に、既存のプリンタのどれかを削除してください。

3.5. プロパティページ

Axis プリントサーバにはプリントサーバ自身の動作を制御するための設定パラメータ、つまりプロパティがあります。これらのプロパティは Axis プリントサーバ内部の不揮発性メモリに保持され、NetPilot の設定プログラムによりアクセスすることができます。

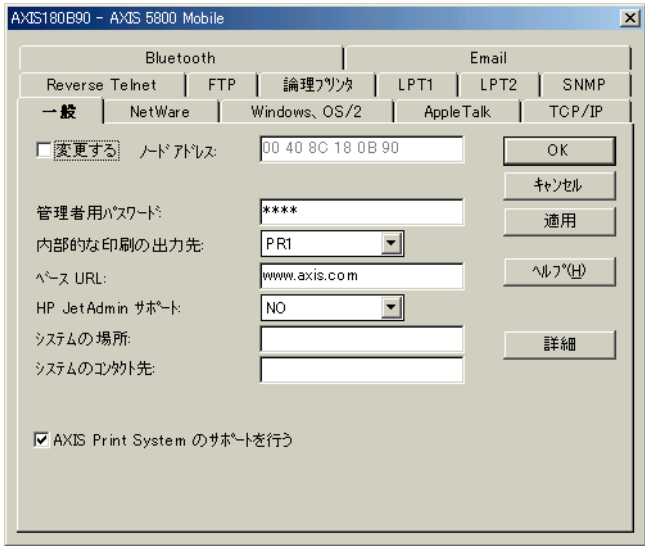
プロパティの変更

プロパティは「プロパティページ」で変更します。これらは各設定パラメータのグループごとに 1 つの「プロパティページ」にまとめられています。
ここでは、代表的な「プロパティページ」の設定方法と各パラメータについて説明します。ここで説明されない「プロパティページ」のパラメータについては、製品に付属の「ユーザズマニュアル」の「パラメータリスト」、または NetPilot の「ヘルプ」を参照してください。

プロパティページを開くには

1. 必要であれば、「AXIS プリントサーバ」フォルダをダブルクリックし、「設定済プリントサーバ」フォルダを表示します。
2. 「設定済プリントサーバ」フォルダをクリックし、設定を変更したい Axis プリントサーバの名前 (AXISnnnnnnn) をクリックします。複数台の Axis プリントサーバの同じパラメータの設定を一度に変更することもできます。
3. 「セットアップ」メニューの「プロパティ」、ツールバーの「プロパティ」ボタン、「ポップアップ」メニューの「プロパティ」のいずれかを選択します。

3.5.1. 一般プロパティ

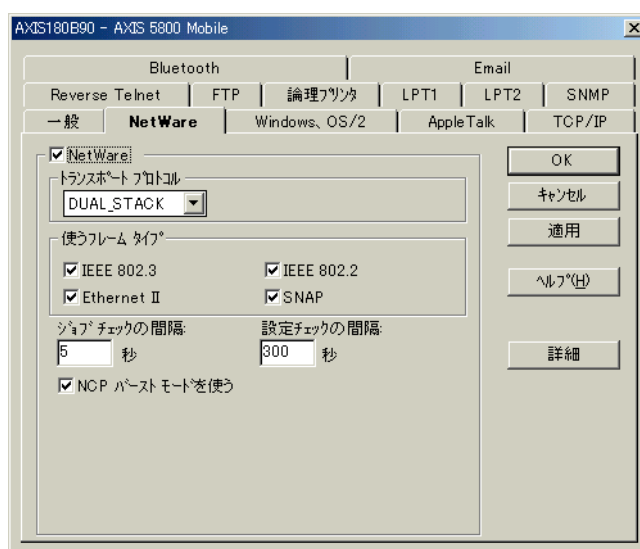


各パラメータの説明

ノードアドレス	工場出荷時状態では、Axis プリントサーバ底面のシリアル番号と同じ12桁の英数字が設定されています。
管理 者 用 パ ス ワ ー ド	これはオプションです。Axis プリントサーバの設定ファイルにパスワードを設定し、アクセスを制限することができます。パスワードを設定した場合、「プロパティページ」、または「ネットワーク」ウィンドウにアクセスする前に、パスワードを入力する必要があります。このパスワードは変更することができます。 パスワードを忘れた場合は、Axis プリントサーバを工場出荷時の設定に戻す以外に解除する方法がありません。また、再インストールする場合は、以前設定したパラメータなどはすべて削除されます。 注意：パスワードを設定しても、ユーザ権限で「プロパティページ」、「ネットワーク」ウィンドウを参照することができます。ユーザ権限で「プロパティページ」、「ネットワーク」ウィンドウを見せないようにするためには、「FTP」プロパティを使用して設定します。

内部的な印刷の出力先	Axis プリントサーバ本体側面のテストボタンを使用してテストページを印刷させることができます。このパラメータではテストページの出力先を指定することができます。
ベース URL	このフィールドは HTTP をサポートするすべての Axis プリントサーバに対して表示され、Axis プリントサーバのベース URL (Uniform Resource Locator) を定義しています。このフィールドを編集して変更することもできます。
HP JetAdmin サポート	(日本語環境では未サポート) デフォルト値は「AUTO_SENSE」です。
システムの場所	(日本語は使用できません) プリントサーバが設置されている場所を示すことができます。
システムのコンタクト先	(日本語は使用できません) システムの担当者名などを示すことができます。
AXIS Print System のサポートを行う	(日本語環境では未サポート) デフォルトでは、有効に設定されています。

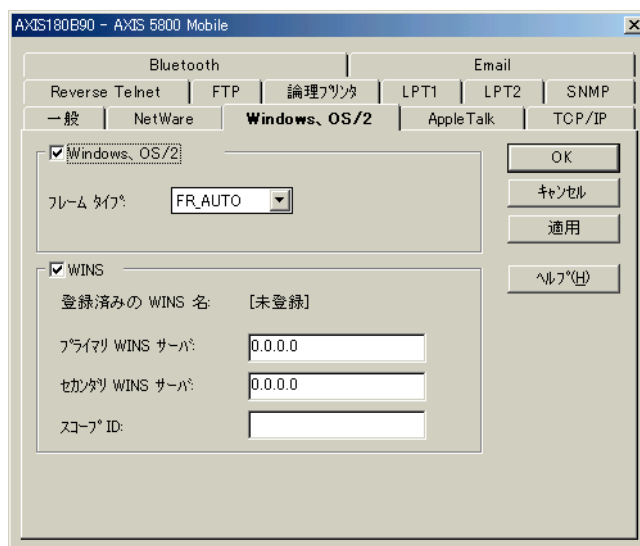
3.5.2.NetWare プロパティ



各パラメータの説明

NetWare	NetWare による印刷は、このチェックボックスで無効にすることができます。その場合、使用中の他のプロトコルのパフォーマンスが向上し、ネットワークトラフィックが減ります。印刷は無効になりますが、プリントサーバは設定されたままになります。
トランスポート プロトコル	NetWare ネットワークでプリントサーバが通信を行うために利用するトランスポートプロトコルを選択します。
使うフレームタイプ	フレームタイプを選択することにより、その環境に適した設定を行なうことができます。
ジョブチェック の間隔	プリントサーバがキューにプリントジョブがあるかどうかをチェックする時間間隔（単位：秒）を入力します。有効な範囲は 1 ～ 255 秒です。
設定チェックの 間隔	（NDS モード専用）プリントサーバが NDS ツリーを検索して設定を更新する時間間隔です。この更新は、プリントサーバが起動されるとただちに行われます。有効な範囲は 1 ～ 65535 秒（約 18 時間 12 分）です。
NCP バースト モードを使う	このパラメータはデフォルトで設定され、ファイルサーバとネットワークプリンタとの間で、高速なデータ転送を有効にしたり、無効にしたりします。

3.5.3.Windows、OS/2 プロパティ

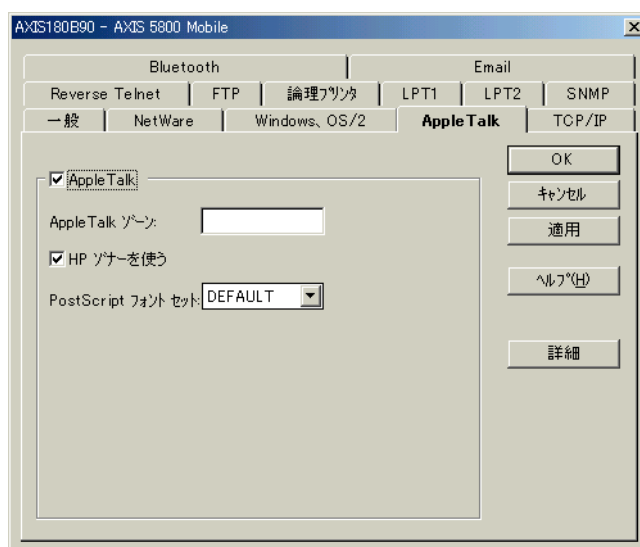


各パラメータの説明

Windows、OS/2	Windows、OS/2 環境での印刷を有効、または無効にすることができます。不要な印刷環境の選択を解除することにより、使用中の他のプロトコルのパフォーマンスが向上し、ネットワークトラフィックが減ります。
フレームタイプ	FR_AUTO を選択すると、プリントサーバは起動時に、FR_802_2、FR_DIX フレームタイプを使用してネットワークを走査し、使用するタイプを決定します。この自動シーケンスを止めたい場合は、このボックスで FR_802_2、または FR_DIX を選択して Axis プリントサーバにこのどちらかのフレームタイプを使用させることができます。
WINS	このチェックボックスをチェックすると、WINS サポートが有効になります。WINS サポートはデフォルトで有効になっています。WINS サポートを無効にしたい場合は、チェックボックスをクリアします。
登録済みの WINS 名	このフィールドには、プリントサーバが WINS サーバに対して登録したホスト名が表示されます。プリントサーバがホスト名を登録していない場合は、このフィールドに未登録という文字列が表示されます。

プライマリ WINS サーバ	プライマリ WINS サーバの IP アドレスです。このアドレスは DHCP サーバから自動的にダウンロードすることも、手動で追加することもできます。なお、DHCP が有効になっていなくても WINS は使用できます。
セカンダリ WINS サーバ	セカンダリ WINS サーバの IP アドレスです。このアドレスは DHCP サーバから自動的にダウンロードすることも、手動で追加することもできます。なお、DHCP が有効になっていなくても WINS は使用できます。
スコープ ID	WINS 名の登録で使用する NetBIOS スコープを定義します。

3.5.4.AppleTalk プロパティ

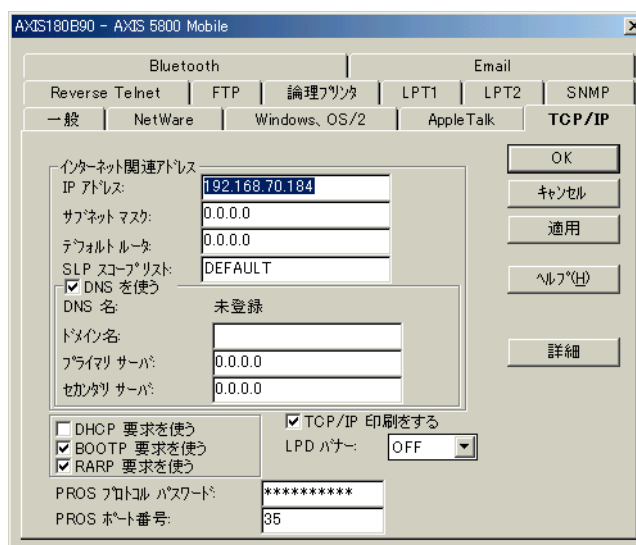


各パラメータの説明

AppleTalk	AppleTalk 環境での印刷を有効、または無効にすることができます。不要な印刷環境の選択を解除することにより、使用中の他のプロトコルのパフォーマンスが向上し、ネットワークトラフィックが減ります。
AppleTalk ゾーン	AppleTalk ネットワークに複数のゾーンがある場合、Axis プリントサーバをインストールするゾーンの名前を入力する必要があります。

HP ゾナーを使う	このスイッチは、HP ゾナーサポートの有効・無効を切り替えます。
PostScript フォントセット	このパラメータは、PostScript プリンタの常駐フォントを指定します。 - デフォルト設定では、プリンタにはフォントがなく、すべての必要なフォントをダウンロードする必要があると見なされます。 - このパラメータを「35N」に変更すると、プリンタに Adobe 35N フォントがある（アメリカとヨーロッパのすべての PostScript プリンタ）場合に、印刷時間を減らすことができます。 - このパラメータを「ALL」に設定すると、フォントがプリンタにダウンロードされなくなります。（プリンタ内蔵フォントのみを使用する場合にこれを選択します。）

3.5.5.TCP/IP プロパティ

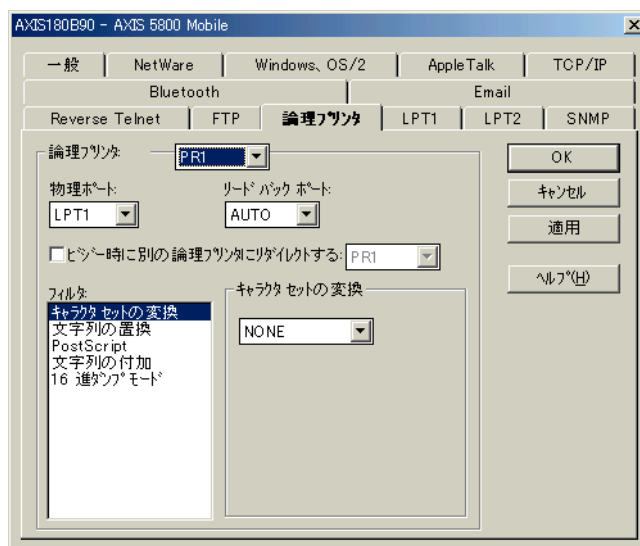


各パラメータの説明

IP アドレス	Axis プリントサーバに設定する IP アドレスを入力します。このアドレスは他のネットワーク機器と重複しないようにしなければなりません。
---------	---

サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。 例えば、通常の C クラスのサブネットマスクは 255.255.255.0 になります。デフォルトの値「0.0.0.0」を設定した場合、自動ルータ検知機能を使用することを意味します。
デフォルトルータ	デフォルトルータの IP アドレスを入力します。デフォルトの値「0.0.0.0」を設定した場合、デフォルトルータを設定しないことを意味します。
SLP スコープリスト	プリントサーバが属する SLP スコープの名前を指定します。
PROS プロトコルパスワード	PROS プロトコルが使用するパスワードを変更することができます。デフォルトのパスワードを変更する場合は、ホスト上の PROS ドライバのパスワードにも同じパスワードを設定する必要があります。
PROS ポート番号	PROS 印刷プロトコルの PROS TCP ポート番号。このパラメータを変更する場合、ホスト側で対応する PROS ドライバ内のポート番号エントリも変更する必要があります。有効な範囲は 0 ～ 65535 です。
DHCP 要求を使う BOOTP 要求を使う RARP 要求を使う	DHCP、BOOTP、RARP の有効・無効を設定します。
LPD バナー	• OFF : LPD バナーページの設定を無効にします。 • AUTO : LPD バナーページを印刷します。最初に印刷するか、最後に印刷するかは使用する OS に依存します。 • LAST : OS に依存することなく、バナーページを最後に印刷します。

3.5.6. 論理プリンタプロパティ



各パラメータの説明

論理プリンタ	PR1 ～ PR8 までの内、どの論理プリンタの設定を行なうかを選択します。他のパラメータはすべてここで選択した論理プリンタの設定を変更していることになります。論理プリンタの詳細は、「ユーザーズマニュアル」を参照してください。
フィルタ	ウィンドウの中に表示されている利用可能なフィルタを選択します。フィルタを選択すると、右側のリストの中にそのフィルタで必要な値を設定することができるようになります。 各フィルタの利用方法については「ユーザーズマニュアル」、または「ヘルプ」を参照してください。「キャラクターセットの変換」フィルタは日本語環境では未サポートとなります。
物理ポート	論理プリンタからの出力を実際に出力するポート（LPT1、LPT2）を選択します。
リードバックポート	双方向通信を行なう場合は、「AUTO」を選択します。

ビジー時に別の論理プリンタにリダイレクトする	このチェックボックスをチェックすると、出力先のプリンタがビジー状態のときに代わりに出力するプリンタをドロップダウンリストの中の PR1 ～ PR8 の論理プリンタか、LPT1、LPT2 を選択することができます。リダイレクションは、ビジーステータスタイムアウトが完了するまで行なわれません。
------------------------	---

3.5.7. LPT1/LPT2 プロパティ

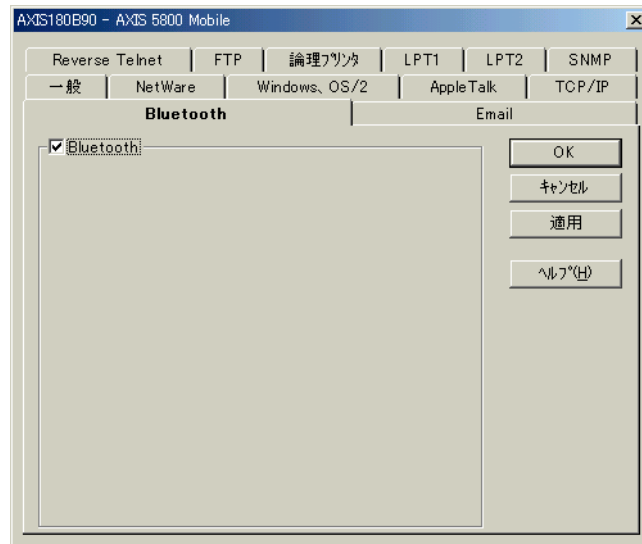


各パラメータの説明

プリンタポート	設定したいプリンタポートを選択します。プリントサーバの機種に応じて、最大 3 つのポートがあります。LPT1 と LPT2 はパラレルポートです。
ビジーステータスタイムアウト	プリントサーバが、プリンタからビジー信号が送られている間に待つ秒数を設定します。この時間が経過すると、プリントサーバからビジーステータスが報告されます。ただし、印刷のリダイレクトを設定してある場合は、2 番目に選択したプリンタでも同じタイムアウト時間が経過しない限り、ビジーステータスは報告されません。有効な範囲は、0 ～ 255 秒です。

セントロニクス インターフェース タイミング	セントロニクス インターフェースのタイミングを次の中から選択します。 • IBM_PC = 低速。最高 68K バイト / 秒。 • STNDRD = 標準速度。最高 160K バイト / 秒。 • FAST = 高速。最高 700K バイト / 秒。 • HISPEED = 高速セントロニクス転送速度。最高 500K バイト / 秒。
プリンタ 管理 情報	プリントサーバがプリンタからプリンタ固有情報を受信できるときに表示されます。次の中から選択してください。 • 自動 = プリントサーバはプリンタからプリンタのステータス情報を受信可能。 • 無効 = プリントサーバはプリンタからプリンタのステータス情報を受信不可能。プリンタが PJL をサポートしない場合は、こちらを選択するようにしてください。 注意：このパラメータはすべての製品、またはソフトウェアバージョンでサポートされているわけではありません。
テスト ページ の印刷	テストページを印刷する場合は、このボタンをクリックします。IPX、または NetBIOS/NetBEUI を使って印刷するよう選択することができます。

3.5.8. Bluetooth プロパティ



各パラメータの説明

Bluetooth	Bluetooth 印刷の有効・無効を切り替えます。
-----------	----------------------------

3.6. プリントサーバフォルダの作成

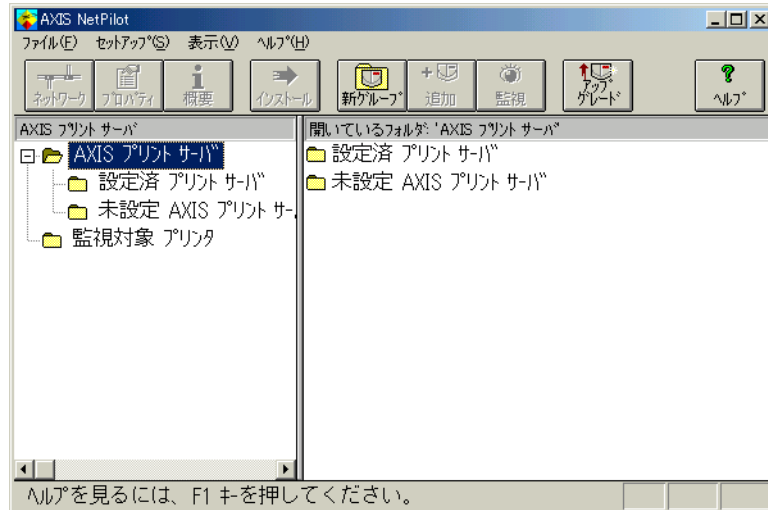
ここでは、プリントサーバグループの作成方法などについて説明します。

いくつかのプリントサーバを、1つのグループ名を持つグループとして扱おうと、ネットワークに複数のプリントサーバがインストールされている場合の設定と管理が簡単になります。

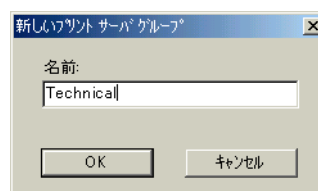
プリントサーバ
グループを作成
する

1. 「AXIS プリントサーバ」フォルダをクリックします。

2. 「ファイル」メニューから「新しいプリントサーバグループ」を選択するか、またはツールバーの「新しいグループ」ボタンをクリックします。

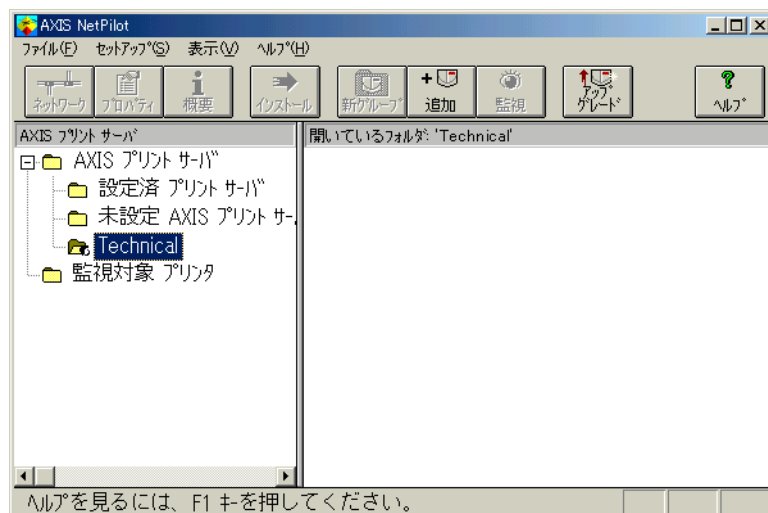


3. ダイアログボックスで、プリントサーバグループの名前を入力します。
4. 「OK」ボタンをクリックします。



プリントサーバグループにプリントサーバを追加する

1. プリントサーバを追加するプリントサーバフォルダを選択します。
2. 「ファイル」メニューから「プリントサーバの追加」を選択するか、またはツールバーの「プリントサーバの追加」ボタンをクリックします。



3. 「ネットワークプリントサーバの追加」ダイアログで、ショートカットを作成するプリントサーバをクリックします。
4. 「OK」 ボタンをクリックします。



プリントサーバ
グループからプ
リントサーバを
削除する

1. プリントサーバを削除するプリントサーバフォルダをクリックします。
2. 削除するプリントサーバをクリックします。
3. 「ファイル」メニューから「オブジェクトの削除」を選択します。

プリントサーバ
グループを削除
する

1. 削除するプリントサーバフォルダをクリックします。
2. 「ファイル」メニューから「グループの削除」を選択します。

注意：プリントサーバフォルダは、空でないと削除できません。

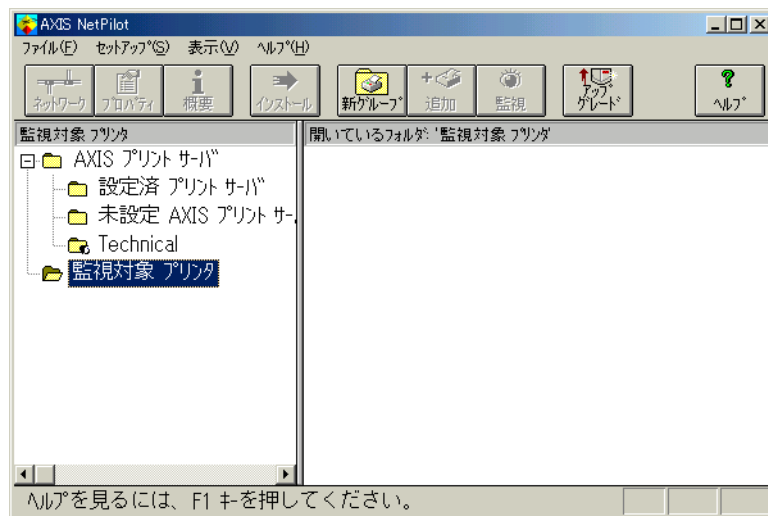
3.7. プリンタの監視

NetPilot を利用してプリンタグループを作成し、プリンタの監視を行なうことができます。

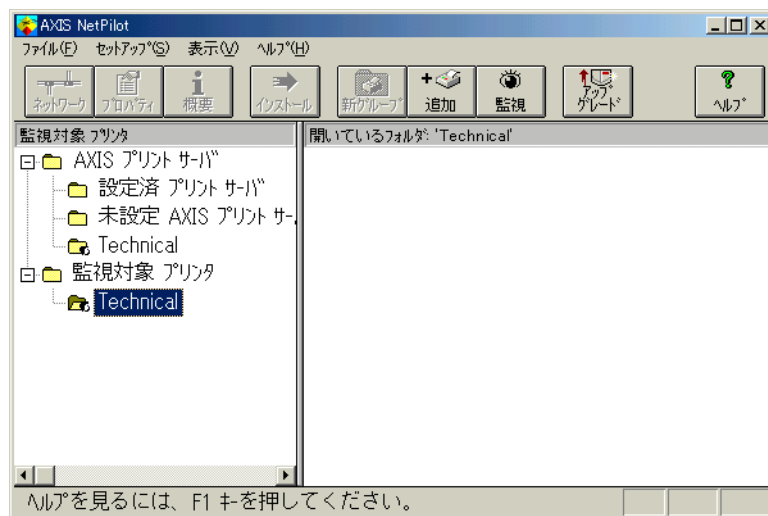
プリンタグルー
プの作成

1. 監視対象プリンタフォルダをクリックします。

2. 「ファイル」メニューから「新しいプリンタグループ」を選択します。

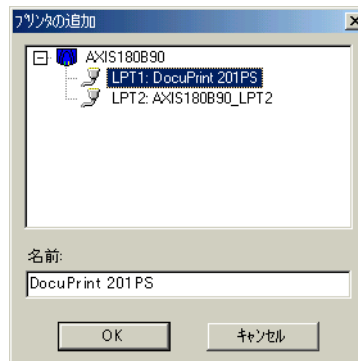


3. ダイアログボックスにプリンタグループの名前を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
4. 作成した新しいグループのフォルダをクリックします。

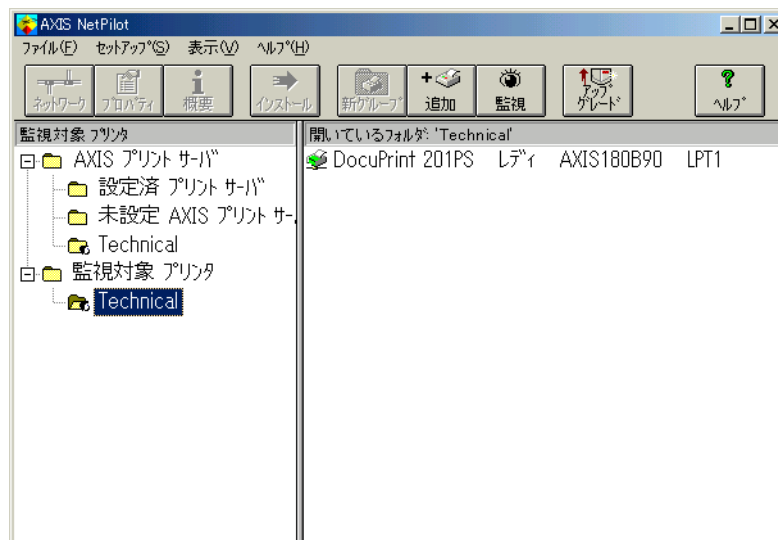


5. 「ファイル」メニューから「プリンタの追加」を選択するか、「プリンタの追加」ボタンをクリックします。
6. 「プリンタの追加」ダイアログウィンドウが表示されます。このダイアログボックスで必要なプリントサーバ名をダブルク

リックして、プリントサーバポートを表示します。監視したいプリンタの名前をクリックして選択します。



- 必要なら、選択したプリンタの名前を変更して、追加をクリックします。メインウィンドウの右側部分にプリンタが表示されます。



この手順を繰り返して監視するプリンタを設定し、必要な数のグループを作成します。

プリンタの状態

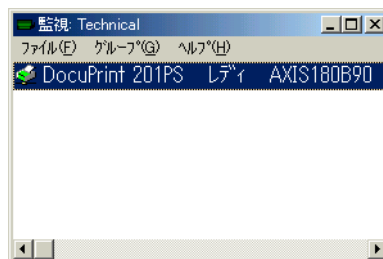
プリンタの状態は、テキストとつぎようなアイコンの色の変化で表示されます。

緑	レディまたはビジー（正常状態）
黄色	オフライン
赤	用紙なし
淡色表示	未接続

独立した監視 ウィンドウを開くには

- 監視したいグループのフォルダをクリックします。
- 「ファイル」メニューまたはツールバーの「監視」ボタンをクリックします。

新しいウィンドウが表示されます。このウィンドウの位置は必要に応じて変更できます。このウィンドウをアイコン化すると、前述の色の説明に従って、グループ内で最も悪い状態にあるプリンタを表す色で表示されます。

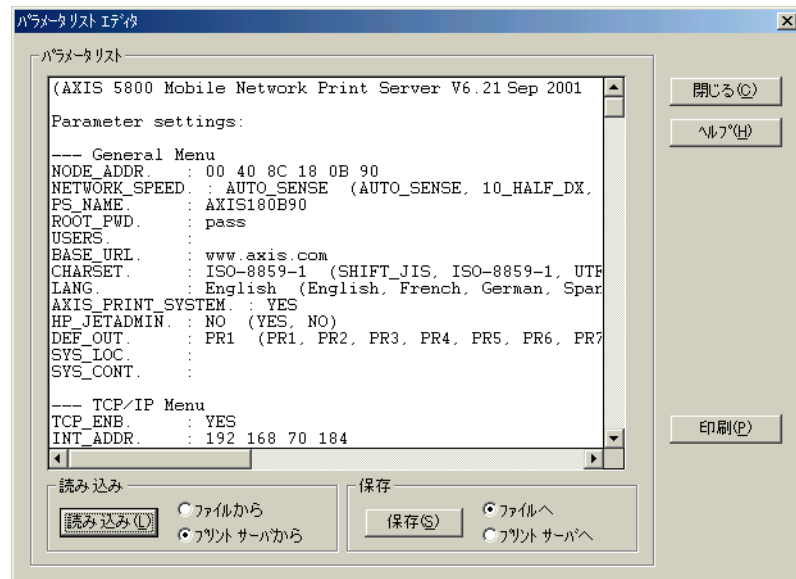


3.8. その他の機能

3.8.1. パラメータリストエディタ

パラメータリストエディタでは、プリントサーバまたはハードディスク上のファイルから読み込んだ任意のパラメータリストを編集することができます。また、任意のプリントサーバまたはハードディスク上のファイルに、編集したパラメータリストを保存することもできます。このエディタ（ウィンドウ）は、通常のテキストエディタです。パラメータリストエディタを起動するには、「セットアップ」メニューの「パラメータリストの編集」を選択します。

注意：間違ってパラメータの名前や値を変更してしまうことがあります。その場合、プリントサーバは新しいパラメータ（値）を反映しません。



パラメータリストを読み込むには

1. ハードディスクまたはプリントサーバのどちらからパラメータリストを読み込むかに応じて、「ファイルから」、または「プリントサーバから」を選択します。
2. 「読み込み」ボタンをクリックします。
3. 例えば、「プリントサーバから」を選択した場合、プリントサーバを選択するダイアログが表示されます。



4. 「OK」ボタンをクリックします。

編集したパラメータリストを保存するには

1. ハードディスクまたはプリントサーバのどちらにパラメータリストを保存するかに応じて、「ファイルへ」、または「プリントサーバへ」を選択します。
2. 「保存」ボタンをクリックします。

- 例えば、「プリントサーバへ」を選択した場合、プリントサーバを選択するダイアログが表示され、「OK」ボタンをクリックすると、「ダウンロードの進行」ウィンドウが表示されます。



3.8.2. 概要ウィンドウ

「概要」ウィンドウは **Axis** プリントサーバとそのポートに接続されたプリンタに関する簡単な情報を表示します。詳細は「ヘルプ」を参照してください。
例えば、以下のような情報を表示します。

名前	プリントサーバ名を表示します。
モデル	Axis プリントサーバのモデル名を表示します。
シリアル番号	Axis プリントサーバの背面に記してある番号です。
ソフトウェアリビジョン	ファームウェアバージョンを表示します。
プリンタの状態	プリンタポートの状態を表示します。



3.8.3. プリントジョブウィンドウ

「プリントジョブ」ウィンドウには、最後の 10 個のプリントジョブの状態が表示されます。

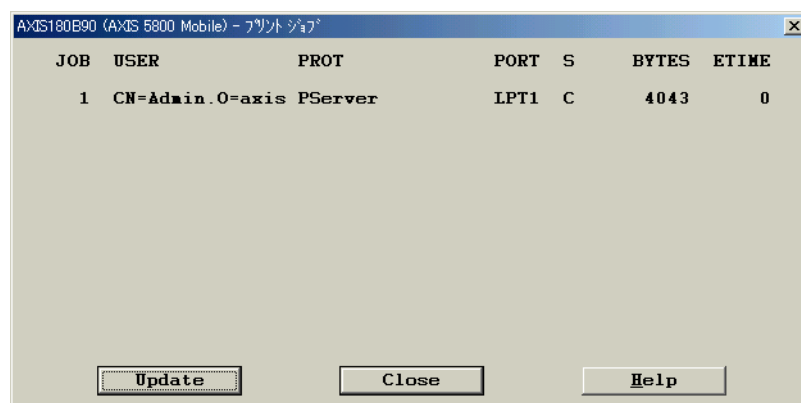
プリントジョブ
ウィンドウを開
くには

必要なプリントサーバアイコンをクリックします。
「ファイル」メニュー、または「ポップアップ」メニューから、「プリントジョブ」を選択します。

「プリントジョブ」ウィンドウの各カラムの意味は以下の通りです。

JOB	単純なプリントジョブシーケンス番号
USER	プリントジョブを送信したユーザの名前
PROT	ネットワーク経由でプリントジョブの送信に使用したプロトコル
LPR	プリントジョブが通過した論理プリンタ番号
S	プリントジョブの状態 (C = 完了、O = プリンタオフライン、P = 印刷中)
BYTES	印刷データのサイズ
ETIME	経過時間
OTIME	オフライン時間

「Update」ボタンをクリックすると、ただちにプリントサーバから現在のプリントジョブ情報を入手することができます。



4.axinstall (UNIX 環境での設定)

「axinstall」スクリプトは、Axis プリントサーバを UNIX 上にインストールするためのプログラムです。実行中は、インタラプトキー (通常は、^C) で強制終了することができます。最初に、お使いのシステムに関する問い合わせが行なわれ、続いて、個々のプリンタの設定に関する問い合わせが行なわれます。実際に UNIX システムの設定を変更する前に、最終的な確認が行なわれます。また、インストールのログは、/tmp/axis_ プロセス番号_log というファイルに保存されます。

注意：Axis プリントサーバは日本語フィルタ機能を搭載していません。「axinstall」を使用し、LPD/FTP/PROS B を利用する方法を選択した場合、印刷するデータは事前にプリンタが処理できる適切なデータ形式に変換されている必要があります。日本語 UNIX 環境での設定に関しては、後述する「日本語 UNIX 環境での設定」を参照してください。

4.1.axinstall による自動設定

4.1.1.BSD 系 UNIX の自動設定

以下の例では、実際に SunOS 4.1.4(Solaris 1.1.2) 上で「axinstall」スクリプトを実行しています。。Axis プリントサーバの論理プリンタに関しては、「ユーザズ マニュアル」を参照してください。

注意：「axinstall」を使用する場合は、LPD を選択することをお勧めします。

```
=====
                                axinstall, version 1.8.3  Mar 31, 1998.

Welcome to the Print Server installation program for TCP/IP under UNIX.

This program will lead you through a procedure to install
Print Servers on your system.
You can stop this program with the interrupt key at any time,
and an installation log will be saved to a file.
axinstall requires that your Print Server's IP address is defined.
Before installation of each printer you will be able to accept or reject the
installation.

=====

Do you want to continue [yn] ? (default y):
```

作業を続ける場合は y、終了する場合は n を押し、改行キーを押します。このような問い合わせに対し、デフォルトの答えが用意され

ている場合があります。ここでは、y がデフォルトの答えです。デフォルトの答えでよい場合は、単に改行キーを押してください。

```
-----
axinstall

An installation log will be saved in the file /tmp/axis_プロセス番号_log
-----

Your system is identified as being a SunOS 4 (SUN BSD, Solaris 1.x)
Is this correct [yn] ? (default y):
```

ここでは、使用しているシステムが、SunOS 4(Solaris 1.x) システムと識別されました。正しければ y、間違っていれば n を入力します。

Select a print method from the list below.
The recommended basic print method is LPD, for more advanced
functionality and status feedback use PROS.

```
1.....LPD
2.....FTP
3.....PROS A
4.....PROS B
```

Enter choice [1-4] (default 1):

印刷方法を指定します。SunOS 4.x の場合に推奨する印刷方法は、LPD の方法です。

Enter the host name of your Print Server: **salesdept**

設定する Axis プリントサーバのホスト名を指定します。ここでは、salesdept とします。

If you want to print using LPT1 with the default parameter values,
choose logical printer '1' for straight-through printing.
Choose '5' for printing with UNIX New Line to CR+LF conversion.

Enter logical printer number [1-8] (default 1):

論理プリンタ番号を指定します。デフォルトのパラメータ設定で、プリンタとの接続口が一つしかないプリントサーバや、プリンタとの接続口が三つあるプリントサーバの LPT1 ポートを利用して印刷する場合は 1 を選択し、UNIX の改行を DOS の改行に変換して印刷する場合は 5 を選択します。同様に、プリンタとの接続口が三つあるプリントサーバの LPT2 ポートを利用する場合は、それぞれ、2 と 6、COM1 ポートを利用する場合は、それぞれ、3 と 7 を入力します。

Enter printer name (default salesdept-pr):

プリンタ名を指定します。この名前は、lpr コマンドの「-P」オプションに指定するものです。

Enter spool directory name (default /var/spool/lpd/salesdept-pr):

スプールディレクトリ名を指定します。スプールディレクトリは、個々のプリンタで異なる場所を利用する必要があります。複数のプリンタで同じスプールディレクトリを共有すると、プリントジョブが消える等の問題が発生する原因にもなります。

Enter log file name (default /var/spool/lpd/salesdept-pr/log):

ログファイル名を指定します。複数のプリンタで同じログファイルを共有しても構いませんが、問題が起きた際の解決を容易にするためにも、個々のプリンタで異なるファイルを利用した方が良いでしょう。

Enter printcap file name (default /etc/printcap):

printcap ファイル名を指定します。通常は、/etc/printcap ファイルのはずです。

LPD の場合の作業

```
----- Printer setup -----
Print Server host name: salesdept
Logical printer: pr1
Printer name: salesdept-pr
Spool directory: /var/spool/lpd/salesdept-pr
Log file: /var/spool/lpd/salesdept-pr/log
Printcap file: /etc/printcap

The printcap file will be modified
The spool directory will be created
The log file will be created

-----
Do you want to install this printer [yn] ? (default y):
```

以上の問い合わせに対し、デフォルトの答えを選択した場合の最終確認の画面です。ここでは、以降で **printcap** が変更され、スプールディレクトリ、ログファイルが作成されます。この問い合わせに対して **y** を入力すると、実際にインストール作業が始まり、お使いのシステムの設定が変更されます。

FTP の場合の作業

Enter FTP filter directory: (default /usr/local/lib/axis):

FTP フィルタを置くディレクトリを指定します。

```
----- Printer setup -----
Print Server host name: salesdept
Logical printer: pr1
Printer name: salesdept-pr
Spool directory: /var/spool/lpd/salesdept-pr
Log file: /var/spool/lpd/salesdept-pr/log
Printcap file: /etc/printcap
FTP filter directory: /usr/local/lib/axis

The printcap file will be modified
```

```
The spool directory will be created
The log file will be created
The FTP filter directory will be created.
```

Do you want to install this printer [yn] ? (default y):

以上の問い合わせに対し、デフォルトの答えを選択した場合の最終確認の画面です。ここでは、以降で `printcap` が変更され、スプールディレクトリ、ログファイル、FTP フィルタディレクトリが作成されます。この問い合わせに対して `y` を入力すると、実際にインストール作業が始まり、お使いのシステムの設定が変更されます。

PROS A の場合の作業

Enter PROS daemon directory (default /usr/local/lib/axis):

PROS デーモンを置くディレクトリを指定します。

Enter PROS daemon pipe: (default /dev/salesdept.pr1):

PROS デーモンのための名前付きパイプを指定します。

Enter PROS log file: (default /usr/local/lib/axis/prosd-log):

PROS のためのログファイルを指定します。複数の PROS デーモンで同じログファイルを共有しても構いませんが、問題が起きた際の解決を容易にするためにも、個々の PROS デーモンで異なるファイルを利用した方が良いでしょう。

Compile the PROS daemon [yn] ? (default y):

PROS デーモンをコンパイルするかどうかを指定します。PROS デーモンのソースプログラムはプログラミング言語 C で記述されています。使用しているシステム上に C コンパイラがない場合は、PROS A の方法を利用することができません。以降で何らかの理由により PROS デーモンのコンパイルに失敗した場合は、再度「axinstall」スクリプトを実行し、この問い合わせに `n` を入力し、後で PROS デーモンを手作業でコンパイルしてください。それ以外は `y` を入力します。

Start the PROS daemon [yn] ? (default y):

PROS デーモンを起動するかどうかを指定します。上で、PROS デーモンの自動コンパイルを指定した場合、また、すでに PROS デーモンをコンパイル済みの場合は `y` を入力します。それ以外は `n` を入力し、後で PROS デーモンを手作業で起動してください。UNIX のブート時に PROS デーモンを自動的に起動するには、システム上の `/etc/rc.local` 等のファイルを変更する必要があります。

```

----- Printer setup -----
Print Server host name: salesdept
Logical printer: pr1
Printer name: salesdept-pr
Spool directory: /var/spool/lpd/salesdept-pr
Log file: /var/spool/lpd/salesdept-pr/log
Printcap file: /etc/printcap
PROS daemon directory: /usr/local/lib/axis
PROS daemon pipe: /dev/salesdept.pr1
PROS daemon log file: /usr/local/lib/axis/prosd-log

The printcap file will be modified
The spool directory will be created
The log file will be created
The PROS daemon directory will be created
The PROS daemon pipe will be created
The PROS daemon log file will be created
The PROS daemon will be compiled
The PROS daemon will be started

-----

Do you want to install this printer [yn] ? (default y):

```

以上の問い合わせに対し、デフォルトの答えを選択した場合の最終確認の画面です。ここでは、以降で **printcap** が変更され、スプールディレクトリ、ログファイル、**PROS** デーモンディレクトリ、**PROS** デーモンパイプ、**PROS** デーモンログファイルが作成されます。また、**PROS** デーモンがコンパイルされ、起動されます。この問い合わせに対して **y** を入力すると、実際にインストール作業が始まり、お使いのシステムの設定が変更されます。

PROS B の場合の作業

```
Enter PROS filter directory: (default /usr/local/lib/axis):
```

PROS フィルタを置くディレクトリを指定します。

```
Is PROS filter input or output? [io] (default o):
```

PROS フィルタを入力フィルタ (**if**) として利用する場合は **i**、出力フィルタ (**of**) として利用する場合は **o** を指定します。

注意：通常、**PROS** フィルタは、出力フィルタとして利用します。出力フィルタは、ヘッダページ、ファイル間の改ページ文字を処理することができます。各プリントジョブに対するユーザ名とホスト名を Axis プリントサーバのアカウントファイルに表示させたい場合は、**PROS** フィルタを入力フィルタとして利用します。

```

----- Printer setup -----
Print Server host name: salesdept
Logical printer: pr1
Printer name: salesdept-pr
Spool directory: /var/spool/lpd/salesdept-pr
Log file: /var/spool/lpd/salesdept-pr/log
Printcap file: /etc/printcap
PROS filter directory: /usr/local/lib/axis
PROS filter is output filter

```

```
The printcap file will be modified
The spool directory will be created
The log file will be created
The PROS filter directory will be created.
```

Do you want to install this printer [yn] ? (default y):

以上の問い合わせに対し、デフォルトの答えを選択した場合の最終確認の画面です。ここでは、以降で **printcap** が変更され、スプールディレクトリ、ログファイル、**PROS** フィルタディレクトリが作成されます。この問い合わせに対して **y** を入力すると、実際にインストール作業が始まり、お使いのシステムの設定が変更されます。

LPD、FTP、PROS A、PROS B で共通の作業

```
Checking setup, wait ...
No conflicts found
Setup check done.

Installing printer salesdept-pr...
...
Installation of printer salesdept-pr done.

Do you want a test printout [yn] ? (default y): n
```

以上の設定に矛盾がないかどうかを検査し、矛盾がなければインストール作業が始まります。何か回復可能な (ファイル名、ディレクトリ名等の) 重複が発見された場合は、確認が行なわれます。回復不可能な矛盾が発見された場合は、最初から設定をやり直すことになります。

プリンタのインストール後、テスト印刷を行うかどうかの問い合わせが行なわれます。インストールのログファイルが印刷されます。このファイルは単なる ASCII テキストですから、一般的な PostScript プリンタには印刷することはできません。また、改ページ文字も含まれていませんので、**LIPS** プリンタ等のページプリンタに印刷した場合は、完全に印刷データがプリンタ側のバッファに格納されたことを確認した後、紙の強制排出を行ってください。**ESC/P**、**PC-201H** 等のプリンタには正常に印刷することができます。

Do you want to install more printers [yn] ? (default n):

プリンタのインストール作業を終了する場合は **n**、続けて他のプリンタをインストールする場合は **y** を入力します。

An installation log is saved in the file /tmp/axis_プロセス番号_log.

以上でインストール作業は完了です。インストールのログは、/tmp/axis_プロセス番号_log というファイルに保存されます。

LPD、**FTP**、**PROS A**、**PROS B** それぞれの場合のログファイルのサンプルを以下に示します。

LPD の場合

```
===== Print Server installation log =====

Installing printer salesdept-pr.
saved file /etc/printcap in file /tmp/ プロセス番号_saved_pcap.
Modifying printcap file /etc/printcap, installed following printcap entry:

salesdept-pr| Network printer on Print Server salesdept:\
                :lp=\
                :sd=/var/spool/lpd/salesdept-pr:\
                :lf=/var/spool/lpd/salesdept-pr/log:\
                :rm=salesdept:\
                :rp=pr1:

Created spool directory /var/spool/lpd/salesdept-pr.
Created log file /var/spool/lpd/salesdept-pr/log.

Installation of printer salesdept-pr done.
```

FTP の場合

```
===== Print Server installation log =====

Installing printer salesdept-pr.
saved file /etc/printcap in file /tmp/ プロセス番号_saved_pcap.
Modifying printcap file /etc/printcap, installed following printcap entry:

salesdept-pr| Network printer on Print Server salesdept using FTP:\
                :lp=/var/spool/lpd/salesdept-pr/null:\
                :sd=/var/spool/lpd/salesdept-pr:\
                :lf=/var/spool/lpd/salesdept-pr/log:\
                :of=/usr/local/lib/axis/ftp_salesdept-pr:\
                :ff=\r\f:\
                :sh:

Created spool directory /var/spool/lpd/salesdept-pr.
Created dummy device /var/spool/lpd/salesdept-pr/null.
Created log file /var/spool/lpd/salesdept-pr/log.
Placed ftp_salesdept-pr in directory /usr/local/lib/axis.

Installation of printer salesdept-pr done.
```

PROS A の場合

```
===== Print Server installation log =====

Installing printer salesdept-pr.
saved file /etc/printcap in file /tmp/ プロセス番号_saved_pcap.
Modifying printcap file /etc/printcap, installed following printcap entry:

salesdept-pr| Network printer on Print Server salesdept using PROS A:\
                :lp=/dev/salesdept.pr1:\
                :sd=/var/spool/lpd/salesdept-pr:\
                :lf=/var/spool/lpd/salesdept-pr/log:\
                ::\
                :sh:

Created spool directory /var/spool/lpd/salesdept-pr.
Created log file /var/spool/lpd/salesdept-pr/log.
Created pros daemon log file /usr/local/lib/axis/prosd-log.
Made prosd pipe /dev/salesdept.pr1.
Started prosd for device /dev/salesdept.pr1.
Started prosd in directory /usr/local/lib/axis with command:

nohup /usr/local/lib/axis/prosd unix00 /dev/salesdept.pr1 salesdept pr1 netprinter 2>
/usr/local/lib/axis/prosd-log 1>&2 &

    If you want the PROS daemon to start automatically at system reboot
    then add the following line to /etc/inittab:

id01::respawn:/usr/local/lib/axis/prosd unix00 /dev/salesdept.pr1 salesdept pr1
netprinter 2> /usr/local/lib/axis/prosd-log 1>&2
```

Installation of printer salesdept-pr done.

PROS B の場合

===== Print Server installation log =====

Installing printer salesdept-pr.
saved file /etc/printcap in file /tmp/ プロセス番号_saved_pcap.
Modifying printcap file /etc/printcap, installed following printcap entry:

```
salesdept-pr| Network printer on Print Server salesdept using PROS B:\
:lp=/var/spool/lpd/salesdept-pr/null:\
:sd=/var/spool/lpd/salesdept-pr:\
:lf=/var/spool/lpd/salesdept-pr/log:\
:of=/usr/local/lib/axis/pros_salesdept-pr:\
:ff=\r\f:\
:sh:
```

Created spool directory /var/spool/lpd/salesdept-pr.
Created dummy device /var/spool/lpd/salesdept-pr/null.
Created log file /var/spool/lpd/salesdept-pr/log.
Compiled pros_salesdept-pr in directory /usr/local/lib/axis.

Installation of printer salesdept-pr done.

4.1.2.System V 系 UNIX の自動設定

以下の例では、実際に Solaris 2.6(SunOS 5.6) 上で「axinstall」スクリプトを実行しています。。Axis プリントサーバの論理プリンタに関しては、「ユーザズ マニュアル」を参照してください。

注意：「axinstall」を使用する場合は、LPD を選択することをお勧めします。また、Solaris 2.6 上で Axis プリントサーバの設定をする場合は、後述する「日本語 UNIX 環境での設定」も参照してください。

=====

axinstall, version 1.8.3 Mar 31, 1998.

Welcome to the Print Server installation program for TCP/IP under UNIX.

This program will lead you through a procedure to install
Print Servers on your system.
You can stop this program with the interrupt key at any time,
and an installation log will be saved to a file.
axinstall requires that your Print Server's IP address is defined.
Before installation of each printer you will be able to accept or reject the
installation.

=====

Do you want to continue [yn] ? (default y):

作業を続ける場合は y、終了する場合は n を押し、改行キーを押します。このような問い合わせに対し、デフォルトの答えが用意されている場合があります。ここでは、y がデフォルトの答えです。デフォルトの答えでよい場合は、単に改行キーを押してください。

axinstall

An installation log will be saved in the file /tmp/axis_ プロセス番号_log

```
-----
Your system is identified as being a SunOS 5 (SUN SYS V, Solaris 2.x)
```

```
Is this correct [yn] ? (default y):
```

ここでは、使用しているシステムが、SunOS 5(Solaris 2.x) システムと識別されました。正しければ y、間違っていれば n を入力します。

```
Select a print method from the list below.
The recommended basic print method is LPD, for more advanced
functionality and status feedback use PROS.
```

```
1.....LPD
2.....FTP
3.....PROS A
4.....PROS B
```

```
Enter choice [1-3] (default 1):
```

印刷方法を指定します。SunOS 5.x の場合に推奨する印刷方法は、LPD の方法です。

```
Enter the host name of your Print Server: salesdept
```

設定する Axis プリントサーバのホスト名を指定します。ここでは、salesdept とします。

```
If you want to print using LPT1 with the default parameter values,
choose logical printer '1' for straight-through printing.
Choose '5' for printing with UNIX New Line to CR+LF conversion.
```

```
Enter logical printer number [1-8] (default 1):
```

論理プリンタ番号を指定します。デフォルトのパラメータ設定で、プリンタとの接続口が一つしかないプリントサーバや、プリンタとの接続口が三つあるプリントサーバの LPT1 ポートを利用して印刷する場合は 1 を選択し、UNIX の改行を DOS の改行に変換して印刷する場合は 5 を選択します。同様に、プリンタとの接続口が三つあるプリントサーバの LPT2 ポートを利用する場合は、それぞれ、2 と 6、COM1 ポートを利用する場合は、それぞれ、3 と 7 を入力します。

```
Enter printer name (default salesdept_pr):
```

プリンタ名を指定します。この名前は、lp コマンドの「-d」オプションに指定するものです。

LPD の場合の作業

```
----- Printer setup -----

Print Server host name: salesdept
Logical printer: pr1
Printer name: salesdept_pr

-----
```

```
Do you want to install this printer [yn] ? (default y):
```

以上の問い合わせに対し、デフォルトの答えを選択した場合の最終確認の画面です。この問い合わせに対して **y** を入力すると、実際にインストール作業が始まり、お使いのシステムの設定が変更されます。

FTP の場合の作業

```
Enter FTP filter directory: (default /usr/local/lib/axis):
```

FTP フィルタを置くディレクトリを指定します。

```
----- Printer setup -----  
  
Print Server host name: salesdept  
Logical printer: pr1  
Printer name: salesdept_pr  
FTP filter directory: /usr/local/lib/axis  
  
The FTP filter directory will be created.  
  
-----  
  
Do you want to install this printer [yn] ? (default y):
```

以上の問い合わせに対し、デフォルトの答えを選択した場合の最終確認の画面です。ここでは、以降で **FTP** フィルタディレクトリが作成されます。この問い合わせに対して **y** を入力すると、実際にインストール作業が始まり、お使いのシステムの設定が変更されます。

PROS A の場合の作業

```
The PROS A method allows the use of any printer model script in the  
'/usr/spool/lp/model/' directory.  
Enter model script name (default standard):
```

/usr/spool/lp/model ディレクトリ中のモデルファイルを指定します。

```
Enter PROS daemon directory (default /usr/local/lib/axis):
```

PROS デーモンを置くディレクトリを指定します。

```
Enter PROS daemon pipe: (default /dev/salesdept.pr1):
```

PROS デーモンのための名前付きパイプを指定します。

```
Enter PROS log file: (default /usr/local/lib/axis/prosd-log):
```

PROS のためのログファイルを指定します。複数の **PROS** デーモンで同じログファイルを共有しても構いませんが、問題が起きた際の解決を容易にするためにも、個々の **PROS** デーモンで異なるファイルを利用した方が良いでしょう。

Compile the PROS daemon [yn] ? (default y):

PROSデーモンをコンパイルするかどうかを指定します。PROSデーモンのソースプログラムはプログラミング言語 C で記述されています。使用しているシステム上に C コンパイラがない場合は、PROS A の方法を利用することができません。以降で何らかの理由により PROS デーモンのコンパイルに失敗した場合は、再度「axinstall」スクリプトを実行し、この問い合わせに **n** を入力し、後で PROS デーモンを手作業でコンパイルしてください。それ以外は **y** を入力します。

Start the PROS daemon [yn] ? (default y):

PROS デーモンを起動するかどうかを指定します。上で、PROS デーモンの自動コンパイルを指定した場合、また、すでに PROS デーモンをコンパイル済みの場合は **y** を入力します。それ以外は **n** を入力し、後で PROS デーモンを手作業で起動してください。UNIX のブート時に PROS デーモンを自動的に起動するには、システム上の /etc/rc3.d 等のディレクトリ下にシェルスクリプトを置き、その中で PROS デーモンを起動するようにする必要があります。

```
----- Printer setup -----
Print Server host name: salesdept
Logical printer: pr1
Printer name: salesdept_pr
PROS daemon directory: /usr/local/lib/axis
PROS daemon pipe: /dev/salesdept.pr1
PROS daemon log file: /usr/local/lib/axis/prosd-log

The PROS daemon directory will be created
The PROS daemon pipe will be created
The PROS daemon log file will be created
The PROS daemon will be compiled
The PROS daemon will be started

-----

Do you want to install this printer [yn] ? (default y):
```

以上の問い合わせに対し、デフォルトの答えを選択した場合の最終確認の画面です。ここでは、以降で PROS デーモンディレクトリ、PROS デーモンパイプ、PROS デーモンログファイルが作成されます。また、PROS デーモンがコンパイルされ、起動されます。この問い合わせに対して **y** を入力すると、実際にインストール作業が始まり、お使いのシステムの設定が変更されます。

PROS B の場合の作業

Enter PROS filter directory: (default /usr/local/lib/axis):

PROS フィルタを置くディレクトリを指定します。

```
----- Printer setup -----
```

```
Print Server host name: salesdept
Logical printer: pr1
Printer name: salesdept_pr
PROS filter directory: /usr/local/lib/axis

The PROS filter directory will be created.
```

```
-----
Do you want to install this printer [yn] ? (default y):
```

以上の問い合わせに対し、デフォルトの答えを選択した場合の最終確認の画面です。ここでは、以降で **PROS** フィルタディレクトリが作成されます。この問い合わせに対して **y** を入力すると、実際にインストール作業が始まり、お使いのシステムの設定が変更されます。

LPD、FTP、PROS A、PROS B で共通の作業

```
Checking setup, wait ...
No conflicts found
Setup check done.

Installing printer salesdept_pr...
...
destination "salesdept_pr" now accepting requests
printer "salesdept_pr" now enabled
Installation of printer salesdept_pr done.

Do you want a test printout [yn] ? (default y): n
```

以上の設定に矛盾がないかどうかを検査し、矛盾がなければインストール作業が始まります。何か回復可能な (ファイル名、ディレクトリ名等の) 重複が発見された場合は、確認が行なわれます。回復不可能な矛盾が発見された場合は、最初から設定をやり直すことになります。

プリンタのインストール後、テスト印刷を行うかどうかの問い合わせが行なわれます。インストールのログファイルが印刷されます。このファイルは単なる ASCII テキストですから、一般的な PostScript プリンタには印刷することはできません。また、改ページ文字も含まれていませんので、LIPS プリンタ等のページプリンタに印刷した場合は、完全に印刷データがプリンタ側のバッファに格納されたことを確認した後、紙の強制排出を行ってください。ESC/P、PC-201H 等のプリンタには正常に印刷することができます。

```
Do you want to install more printers [yn] ? (default n):
```

プリンタのインストール作業を終了する場合は **n**、続けて他のプリンタをインストールする場合は **y** を入力します。

An installation log is saved in the file /tmp/axis_プロセス番号_log.

以上でインストール作業は完了です。インストールのログは、/tmp/axis_プロセス番号_log というファイルに保存されます。

LPD、FTP、PROS A、PROS B それぞれの場合のログファイル、lpstat コマンドの出力のサンプルを以下に示します。

LPD の場合

```
===== Print Server installation log =====

Installing printer salesdept_pr.
"salesdept" has been added.
used lpsystem to add(modify) an entry for salesdept in /etc/lp/Systems
installed salesdept_pr with lpadmin using remote system name salesdept and
remote printer name pr1

Installation of printer salesdept_pr done.

% lpstat -t
scheduler is running
no system default destination
system for salesdept_pr: salesdept (as printer pr1)
salesdept_pr accepting requests since Fri Dec 1 13:21:36 JST 1995
printer salesdept_pr is idle. enabled since Fri Dec 1 13:21:36 JST 1995. available.

% lpstat -l -p
printer salesdept_pr is idle. enabled since Fri Dec 1 13:21:36 JST 1995. available.
Content types: any
Printer types: unknown
Description:
Users allowed:
    (all)
Forms allowed:
    (none)
Banner not required
Character sets:
    (none)
Default pitch:
Default page size:
```

FTP の場合

```
===== Print Server installation log =====

Installing printer salesdept_pr.
Created directory /usr/local/lib/axis.
Placed ftp_salesdept_pr in directory /usr/local/lib/axis.
installed salesdept_pr with lpadmin using interface
/usr/local/lib/axis/ftp_salesdept_pr.
device used is /dev/null (dummy device).

Installation of printer salesdept_pr done.

% lpstat -t
scheduler is running
no system default destination
device for salesdept_pr: /dev/null
salesdept_pr accepting requests since Fri Dec 1 13:37:24 JST 1995
printer salesdept_pr is idle. enabled since Fri Dec 1 13:37:25 JST 1995. available.

% lpstat -l -p
printer salesdept_pr is idle. enabled since Fri Dec 1 13:37:25 JST 1995. available.
Form mounted:
Content types: simple
Printer types: unknown
Description:
Connection: direct
Interface: /usr/local/lib/axis/ftp_salesdept_pr
On fault: write to root once
After fault: continue
Users allowed:
    (all)
Forms allowed:
    (none)
Banner required
Character sets:
    (none)
Default pitch:
Default page size:
```

Default port settings:

PROS A の場合

```
===== Print Server installation log =====

Installing printer salesdept_pr.
  Compiled prosd in directory /usr/local/lib/axis.
  If you want the PROS daemon to start automatically at system reboot
  then add the following line to /etc/inittab:

id01::respawn:/usr/local/lib/axis/prosd ultra1 /dev/salesdept.pr1 salesdept pr1
netprinter 2> /usr/local/lib/axis/prosd-log 1>&2

Note! The ID string 'id01' must be four (4) characters long and individual
for every entry in /etc/inittab.
On some systems, the /etc/inittab file is recreated each
time the system is booted, erasing the entries you just added. To
cure this problem, put the added lines in a separate file in the
/etc/conf/init.d directory as well. Any file name will do, such
as /etc/conf/init.d/printer-init.

Made prosd pipe /dev/salesdept.pr1.
Started prosd for device /dev/salesdept.pr1.
Started prosd in directory /usr/local/lib/axis with command:

nohup /usr/local/lib/axis/prosd ultra1 /dev/salesdept.pr1 salesdept pr1 netprint
er 2> /usr/local/lib/axis/prosd-log 1>&2 &

  If you want the PROS daemon to start automatically at system reboot
  then add the following line to /etc/inittab:

id01::respawn:/usr/local/lib/axis/prosd ultra1 /dev/salesdept.pr1 salesdept pr1
netprinter 2> /usr/local/lib/axis/prosd-log 1>&2

installed salesdept_pr with lpadmin using standard model on device /dev/salesdep
t.pr1.

Installation of printer salesdept_pr done.

% lpstat -t
scheduler is running
no system default destination
device for salesdept_pr: /dev/salesdept.pr1
salesdept_pr accepting requests since Mon Aug 17 16:49:06 JST 1998
printer salesdept_pr is idle. enabled since Mon Aug 17 16:49:06 JST 1998. available.

% lpstat -l -p
printer salesdept_pr is idle. enabled since Mon Aug 17 16:49:06 JST 1998. available.
  Form mounted:
  Content types: simple
  Printer types: unknown
  Description:
  Connection: direct
  Interface: /usr/lib/lp/model/standard
  On fault: write to root once
  After fault: continue
  Users allowed:
    (all)
  Forms allowed:
    (none)
  Banner required
  Character sets:
    (none)
  Default pitch:
  Default page size:
  Default port settings:
```

PROS B の場合

```
===== Print Server installation log =====

Installing printer salesdept_pr.
Created directory /usr/local/lib/axis.
Compiled pros_salesdept_pr in directory /usr/local/lib/axis.
installed salesdept_pr with lpadmin using interface
/usr/local/lib/axis/pros_salesdept_pr.
device used is /dev/null (dummy device).
```

```

Installation of printer salesdept_pr done.

% lpstat -t
scheduler is running
no system default destination
device for salesdept_pr: /dev/null
salesdept_pr accepting requests since Fri Dec 1 21:04:17 JST 1995
printer salesdept_pr is idle. enabled since Fri Dec 1 21:04:18 JST 1995. available.

% lpstat -l -p
printer salesdept_pr is idle. enabled since Fri Dec 1 21:04:18 JST 1995. available.
  Form mounted:
  Content types: simple
  Printer types: unknown
  Description:
  Connection: direct
  Interface: /usr/local/lib/axis/pros_salesdept_pr
  On fault: write to root once
  After fault: continue
  Users allowed:
    (all)
  Forms allowed:
    (none)
  Banner required
  Character sets:
    (none)
  Default pitch:
  Default page size:
  Default port settings:

```

4.2. 日本語 UNIX 環境での設定（手動設定）

ここでは、以下の各 UNIX システムについて、それぞれの UNIX システムが持つ機能（ツール）を利用して Axis プリントサーバ、およびプリンタの設定を行なう手順について説明します。各 UNIX システムの機能（ツール）の詳細は、それぞれの UNIX システムのマニュアルなどを参照してください。

4.2.1.AIX 4.x

IBM AIX 4.x 上でプリントデータをクライアント(AIX 4.x)側でフィルタリングしてから Axis プリントサーバ側の lpd へ渡す設定について説明します。

この手順では Axis プリントサーバに付属の「axinstall」は使用しません。プリンタの設定は全て「SMIT」から行ないます。

以下の例では IBM AIX 4.1.5 から LPD を利用して Axis プリントサーバ経由で Canon LIPS 系プリンタへ印刷するための手順について説明します。

注意：AIX 4.2.1 では、「SMIT」上のメニュー名などが一部変更されています。AIX 4.2.1 で変更されている名称については、その都度記述しています。また、AIX 4.x が対応していない日本語プリンタ（フィルタ）については以下の設定を行なっても日本語の印刷はできません。AIX 4.x 上に利用するプリンタに対応するフィルタがあるかどうかは AIX のマニュアルなどを参照してください。

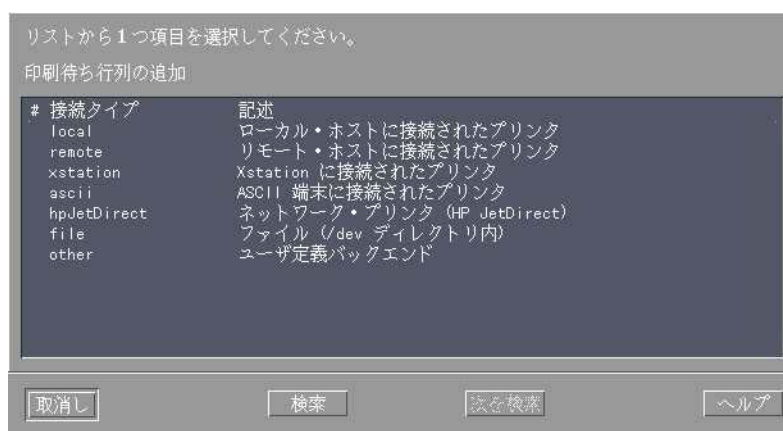
Axis プリント サーバの IP ア ドレス設定

「ユーザズ マニュアル」を参照してホストテーブルの編集、Axis
プリントサーバの IP アドレス設定を行ないます。

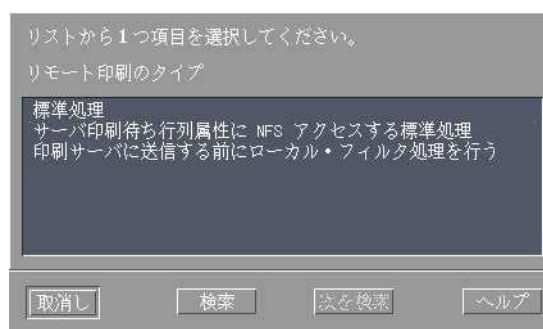
SMIT を使用し たプリンタの設 定

AIX 4.x 付属の「SMIT」を使用してプリンタの設定を行ないます。

1. AIX 4.x 上で「SMIT」を起動します。
2. 「印刷スプーリング」メニューを選択します。
3. 「印刷待ち行列の追加」メニューを選択します。(AIX 4.2.1: 「印
刷キューの追加」)
4. ここまで、選択するとキューのタイプを選択する画面になりま
す。「remote」を選択します。



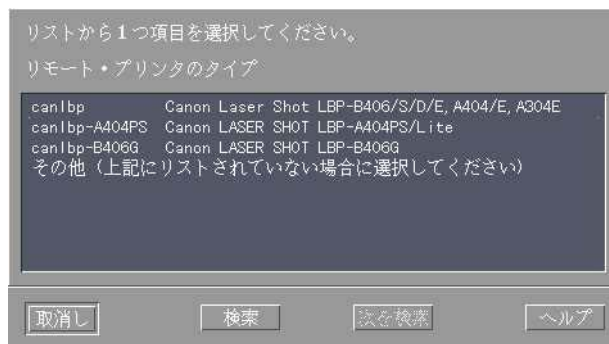
5. 次にリモート印刷のタイプを選択する画面が表示されます。こ
こで「印刷サーバに送信する前にローカル・フィルタ処理を行
なう」を選択します。



6. ここまで選択すると次のような画面が表示されます。ここで使用するプリンタ・メーカーを選択します。この例では「Canon」を選択します。



7. 次の画面で使用するプリンタを選択します。この例では Canlbp-B406G を選択します。



8. ここまで選択すると、次のような画面が表示されます。



9. ここで「追加する新しい印刷待ち行列名」(AIX 4.2.1 : 「追加する新規印刷キュー名」) にはキュー名を入力します。この例では「a404g2_lpd」と入力しています。「リモート・サーバのホスト名」には Axis プリントサーバに設定したホスト名、または IP アドレスを入力します。この例ではホスト名「test09」と入力しています。「リモート・サーバ上の待ち行列名」(AIX 4.2.1 : 「リモート・サーバ上のキュー名」) には Axis プリントサーバの論理プリンタ名を入力します。通常、デフォルトでは Axis プリントサーバの LPT1 ポートに接続したプリンタに出力する場合は「pr1」、LPT2 ポートに接続したプリンタに出力する場合は「pr2」、COM1 ポートに接続したプリンタに出力する場合は「pr3」と入力します。論理プリンタの詳細については「ユーザーズマニュアル」を参照して下さい。この例では「pr2」を選択しています。「リモート・サーバ上の印刷スプーラのタイプ」には「BSD」を選択します。
10. 「了解」ボタンをクリックし、正常に設定されることを確認します。
11. 「SMIT」を終了します。

4.2.2.HP-UX 10.xx

HP-UX(Ver.10.10 以降) 上で提供される「setnetlp」ツールを使用して、既存の MODEL ファイルを利用し Axis プリントサーバへの印刷方法に LPD を利用する際の設定方法について説明します。以下の例では HP-UX(ver.10.20) から Axis プリントサーバ経由で「Canon LBP850」に印刷するものとします。

Axis プリントサーバの IP アドレス設定

「ユーザーズ マニュアル」を参照してホストテーブルの編集、Axis プリントサーバの IP アドレス設定を行ないます。

setnetlp ツールを使用したプリンタの設定

「setnetlp」ツールには、コマンドラインにオプションを指定して実行する方法と、対話形式で実行する方法があります。詳細は、HP-UX の「日本語環境ユーザーズ・ガイド」を参照してください。以下の例では対話形式でプリンタの設定を行なっています。

1. root に su します。
2. /usr/sbin/setnetlp を実行します。以下のメニューが表示されます。

```
# /usr/sbin/setnetlp

#####
#      MAIN MENU      #
# Network Printer Configuration #
#####

1) Add Printer
2) Remove Printer

q) Quit

Please enter a selection:
```

3. "1) Add Printer" を選択します。以下の設定メニューが表示されます。

```
Please enter a selection: 1

Configurable Parameters:      Current Settings
-----
0) Done. Make Configuration now!
1) Lp destination name:      [(N/A)]
2) Remote System name:      [(N/A)]
3) Remote Printer name:      [(N/A)]
4) Local Model Script:      [(N/A)]

q) Quit

Select an item for change or select "0":
```

4. "1) Lp destination name:" を選択します。現在設定されているプリンタの一覧が表示されます。「Please enter a lp destination

name:」の後に、設定したいプリンタ名を入力します。この例では「lbp850」としています。

```
Select an item for change or select "0":1
```

```
Currently used names:
```

```
-----  
lj4v540_1 lj4vmio_1
```

```
Please enter a lp destination name: lbp850
```

5. "2) Remote System name:" を選択します。「Please enter a remote system name/IP address:」の後に、Axis プリントサーバに設定した IP アドレス、またはホスト名を入力します。この例ではホスト名に「lbp850」を入力しています。

```
Select an item for change or select "0":2
```

```
Please enter a remote system name/IP address: lbp850
```

6. "3) Remote Printer name:" を選択します。「Please enter a remote printer name:」の後に、Axis プリントサーバの論理プリンタ名 (pr1 ~ pr8) を入力します。通常、Axis プリントサーバの平行ポート LPT1 に出力する場合は「pr1」、LPT2 に出力する場合は「pr2」、シリアルポート COM1 に出力する場合は「pr3」と入力します。AXIS 5400 などのプリンタ直結タイプのモデルは「pr1」と入力します。

```
Select an item for change or select "0":3
```

```
Please enter a remote printer name: pr1
```

7. "4) Local Model Script:" を選択します。モデルファイルのリストとプロンプトが表示されます。「Please enter a model file:」の後

に、使用するモデルファイル名を入力します。Canon LIPS 系プリンタに出力する場合は、LIPS4(LIPS3) を選択します。

```
Select an item for change or select "0":4
Valid Models:
-----
ESCP      colorpro    hp2228a    hp2934a    laserjet4
HPGL1     deskjet     hp2235a    hp33440a    laserjet4Si
HPGL2     deskjet1200C hp2276a    hp33447a    laserjet4v
HPGL2.cent      deskjet1600CM  hp2300-1100L    hp3630a
laserjet5Si
LIPS3     deskjet500  hp2300-840L hp5000c30    laserjetIIISi
LIPS4     deskjet500C hp2560      hp5000f100    paintjet
PCL1      deskjet550C hp2563a     hp7440a       paintjetXL300
PCL2      deskjet850C hp2564b     hp7475a       postscript
PCL3      deskjet855C hp2565a     hp7550a       quietjet
PCL4      draftpro    hp2566b     hp7570a       rmodel
PCL4.nloo  dumb        hp2567b     hp7595a       rmodel.asx
PCL5      dumbplot    hp256x.cent hp7596a       ruggedwriter
PCL5.asian  fonts      hp2631g     hpC1208a      thinkjet
PCL5.nloo  hp2225a     hp2684a     hpc1200aj
PS.nlio    hp2225d     hp2686a     hpc1208a
colorlaserjet hp2227a    hp2932a     laserjet

Please enter a model file:
```

注意：通常、日本語ポストスクリプトプリンタに出力する場合は、PS.nlio を選択します。

8. ここまでの設定が終了すると、メニューは以下のようになります。

```
Please enter a model file: LIPS4

Configurable Parameters:      Current Settings
-----
0) Done. Make Configuration now!
1) Lp destination name:      [lbp850]
2) Remote System name:      [lbp850]
3) Remote Printer name:      [pr1]
4) Local Model Script:      [LIPS4]

q) Quit

Select an item for change or select "0":
```

9. 設定した内容を確認し、"0) Done. Make Configuration now!:" を選択します。次のメッセージ、およびプロンプトが表示されます。

Select an item for change or select "0":0

WARNING: This operation requires lp spooler be shut down.
The spooler will be running again after this operation is done.
If there are jobs currently being printed, those are reprinted in
their entirety after spooler is started again.

OK to continue? (y/n, default-n):

10. 処理を続ける場合は、「y」を入力します。つぎのメッセージが表示されます。

OK to continue? (y/n, default-n): y

Printer, lbp850, has been added.
Press the return-key to return to configuration menu...

11. リターン・キーを押すと最初の設定メニューに戻ります。

Configurable Parameters:	Current Settings
-----	-----
0) Done. Make Configuration now!	
1) Lp destination name:	[lbp850]
2) Remote System name:	[lbp850]
3) Remote Printer name:	[pr1]
4) Local Model Script:	[LIPS4]
q) Quit	
Select an item for change or select "0":	

12. "q" を 2 回入力して setnetlp スクリプトを終了します。

テスト印刷

ファイルを印刷して正常に印刷されることを確認します。
日本語の文字が入ったテキストファイルを lp スプーラでプリント
する場合、以下の 2 つのオプションのうち一方が必要です。

文字コード	lp オプション
シフト JIS	japanese

日本語 EUC	japanese.euc
---------	--------------

この例では、日本語 EUC の文章を lbp850 に出力しています。

```
# lp -d lbp850 -ojapanese.euc /usr/newconfig/RelNotes/PRINTER-JPN-E
request id is lbp850-2 (1 file)
#
```

4.2.3.Solaris 2.6

Solaris 2.6 から日本語 PostScript プリンタ、日本語ページプリンタに印刷するための手順について説明します。

Axis プリント
サーバの IP ア
ドレス設定

「ユーザズ マニュアル」を参照してホストテーブルの編集、Axis プリントサーバの IP アドレス設定を行ないます。

/user/lib/lp/
model/
netstandard の
編集

常にバナーページを印刷しないようにするために、/usr/lib/lp/model/netstandard ファイルを編集し、以下の部分を「no」から「yes」に変更します

```
#####
# default: do print a banner
#####
nobanner=yes  "no" → "yes" に変更
nofilebreak="no"
inlist=
```

日本語 Post-
Script プリンタ
の設定

以下の例では、「Canon LBP730PS」を Solaris 上で設定するプリンタ名として「lbp730ps」で登録します。

1. root に su します。
2. lpadmin コマンドを使用し、プリンタの設定を行ないます。

```
# lpadmin -p lbp730ps -v /dev/null
# lpadmin -p lbp730ps -i /usr/lib/lp/model/netstandard
```

3. 次の lpadmin コマンドでは、使用する Axis プリントサーバのホスト名を「lbp730ps」、使用する論理プリンタ名を「pr1」としています。通常、Axis プリントサーバの平行ポート LPT1 に出力する場合は「pr1」、LPT2 に出力する場合は「pr2」、シリ

アルポート COM1 に出力する場合は「pr3」と入力します。AXIS 5400などのプリンタ直結タイプのモデルは「pr1」と入力します。

```
# lpadmin -p lbp730ps -o dest=lbp730ps:pr1 -o protocol=bsd -o
timeout:15
(注意：ホスト名とプリンタ名の間にはコロン「:」が必要です)
# lpadmin -p lbp730ps -I postscript -T PS
# accept lbp730ps
destination "lbp730ps" now accepting requests
# enable lbp730ps
printer "lbp730ps" now enabled
# lpstat -p lbp730ps -l
printer lbp730ps is idle. enabled since 1998 年 12 月 10 日 ( 木 ) 21 時
15 分 43 秒 JST. av
ailable.
    Form mounted:
    Content types: postscript
    Printer types: PS
    Description:
    Connection: direct
    Interface: /usr/lib/lp/model/netstandard
    On fault: write to root once
    After fault: continue
    Users allowed:
        (all)
    Forms allowed:
        (none)
    Banner required
    Character sets:

    Default pitch:
    Default page size: 80 wide 66 long
    Default port settings:
    Options: dest=lbp730ps:pr1, protocol=bsd

#
```

4. 次にテキストファイル印刷フィルタを登録します。

```
# cd /etc/lp/fd
# lpfilter -x -f postscript
この時、以下のメッセージが表示されても無視して次に進みます。
UX:lpfilter: エラー : No filter by the name "postscript" exists.
    TO FIX: Check the name again.
# lpfilter -f jpostprint -F jpostprint.fd
```

5. ここまでの手順が終了すると、日本語 PostScript プリンタから印刷できるようになります。

日本語ページプリンタ (Canon LIPS プリンタ) の設定

以下の例では、「Canon LBP850」を Solaris 上で設定するプリンタ名として「lbp850」で登録します。

注意：Canon LIPS プリンタへ印刷する場合、プリンタ本体の「優先エミュレーションメニュー」を [LIPS] (LIPS モード) にする必要があります。設定方法などについては、プリンタのマニュアルを参照してください。

1. root に su します。
2. lpadmin コマンドを使用し、プリンタの設定を行ないます。

```
# lpadmin -p lbp850 -v /dev/null
# lpadmin -p lbp850 -i /usr/lib/lp/model/netstandard
```

3. 次の lpadmin コマンドでは、使用する Axis プリントサーバのホスト名を「lbp850」、使用する論理プリンタ名を「pr1」としています。通常、Axis プリントサーバの平行ポート LPT1 に出力する場合は「pr1」、LPT2 に出力する場合は「pr2」、シリア

ルポート COM1 に出力する場合は「pr3」と入力します。AXIS 5400などのプリンタ直結タイプのモデルは「pr1」と入力します。

```
# lpadmin -p lbp850 -o dest=lbp850:pr1 -o protocol=bsd -o timeout:15
(注意：ホスト名とプリンタ名の間にはコロン「:」が必要です)
# lpadmin -p lbp850 -I None -T canon-ls-a408
# accept lbp850
destination "lbp850" now accepting requests
# enable lbp850
printer "lbp850" now enabled
# lpstat -p lbp850 -l
printer lbp850 is idle. enabled since 1998 年 12 月 10 日 (木) 21 時 45
分 41 秒 JST. avai
lable.
    Form mounted:
    Content types: None
    Printer types: canon-ls-a408
    Description:
    Connection: direct
    Interface: /usr/lib/lp/model/netstandard
    On fault: write to root once
    After fault: continue
    Users allowed:
        (all)
    Forms allowed:
        (none)
    Banner required
    Character sets:
        (none)
    Default pitch:
    Default page size: 170 wide 66 long
    Default port settings:
    Options: dest=lbp850:pr1, protocol=bsd

#
```

4. 次にテキストファイル印刷フィルタを登録します。

```
# cd /etc/lp/fd
# lpfilter -f jprconv -F jprconv.fd
#
```

5. ここまでの手順が終了すると、Canon LIPS プリンタから印刷できるようになります。

その他のプリンタについて

プリンタタイプを設定することにより、以下のコントロールコードをサポートするプリンタにも日本語テキストを印刷することができるようになります。詳細は Solaris 2.6 のマニュアルなどを参照してください。

コントロールコード	プリンタタイプ
EPSON ESC/P (ESC/P24-J84)	epson-vp5058
NEC 201PL	nec-pr201

また、事前に UNIX 側でプリンタが処理できるようなデータ形式にファイル（データ）を変換している場合は、ファイル内容形式 (-I) : any、プリンタタイプ (-T) : unknown と設定することにより印刷できるようになります。

```
# lpadmin -p <プリンタ名> -v /dev/null
# lpadmin -p <プリンタ名> -i \ /usr/lib/lp/model/netstandard
# lpadmin -p <プリンタ名> -o dest=<Axis プリントサーバ>:< 論理プリンタ名> -o \ protocol=bsd -o timeout:15
# lpadmin -p <プリンタ名> -I any -T unknown
# accept <プリンタ名>
# enable <プリンタ名>
# lpstat -p <プリンタ名> -l
# lp -d <プリンタ名> /etc/hosts
```


5. 問題解決

ここでは、各環境で起こりうる問題（障害）とその解決方法について説明します。また、プリンタとプリントサーバの接続に関する問題などについても説明しています。

5.1.LED（インジケータ）を利用した問題の切り分け

以下のような現象はAxisプリントサーバ本体の故障と思われます。

- LAN ケーブルを抜いても Network LED が点滅しつづける。
- Power LED が点灯しない

LED（インジケータ）には以下の機能があります。

LED	状態	状態内容
Power	消灯	電源か本体に異常があります。
Network	0.3 秒点灯・0.3 秒消灯	本体に異常があります。
	1 秒点灯・1.25 秒消灯	本体に異常があります。

5.2.NetWare 環境

- パラレルプリンタポートを利用して、プリンタのオフラインや紙なしが頻繁に通知されて困る場合は、Axis プリントサーバ内の config ファイル中、L1_BSYTM(LPT1 ポートの場合)、L2_BSYTM(LPT2 ポートの場合)パラメータのデフォルトの 60 という値を、たとえば、255 に変更して試してみてください。それでもだめな場合は、0 に設定してください。0 にすると、ステータスの報告は無効になります。
- Axis プリントサーバ内の config ファイル中、NETW_ENB パラメータを NO に設定しても、Axis プリントサーバは定期的に SAP ブロードキャストをネットワークに流します。これは、NetWare 環境において、AXIS NetPilot が Axis プリントサーバを見つけられるようにするためです。この SAP を止めたい場合は、config ファイル中、FR_802_3、FR_ETH_2、FR_802_2、FR_SNAP パラメータをすべて NO に設定してください。

印刷ができなかったり、印刷が途中で止まったり、文字化けしたりする場合は、以下の点を確認してみてください：

1. パラレルプリンタポートを利用している場合、プリンタとプリントサーバの間のパラレルインタフェースのタイミングが合っていない可能性があります。Axis プリントサーバ内の `config` ファイル中、`L1_CENTR`(`LPT1` ポートの場合)、`L2_CENTR`(`LPT2` ポートの場合) パラメータをデフォルトの `HISPEED` 以外の値、たとえば、`IBM_PC` や `STNDRD` に変更して試してみてください。
2. プリンタドライバが双方向通信をサポートしている場合には、可能ならばプリンタドライバのプロパティで双方向通信を行わない設定にしたり、Axis プリントサーバ内の `config` ファイル中、`PRx_IN` パラメータ (`x` は、1 ~ 8) をデフォルトの `AUTO` から `NONE` に変更してみてください。
3. 論理プリンタ 5 ~ 8 は、デフォルトで文字列置換の設定が施されています。これらの論理プリンタにプリンタドライバが生成したバイナリ形式のプリントジョブを送ると、文字化けが起きる可能性があります。論理プリンタ 1 ~ 4 を使ってみてください。
4. ユーザーズマニュアル「第 13 章 テストボタン」の説明にしたがい、Axis プリントサーバの設定を工場出荷時のデフォルト設定に戻し、`AXIS NetPilot` を利用してすべての設定を最初からやり直してみてください。
5. 新しいプリンタドライバがないか、使用している OS に対する新しいパッチが出ていないか確認してください。
6. 可能ならば、他の Axis プリントサーバ、電源、プリンタと取り替えて試してみてください。

5.3.Windows 環境

Windows 95、 Windows 98(TCP/IP):

実際に印刷を行なった時、プリントジョブの状態がエラーになる場合は、もう一度「TCP/IP を利用して印刷する」の説明に戻り、プリンタ名を指定するところで、例えば、`PR1` を入力しているかどうか確認してください。ここに、`LP` というような未定義の名前を指定すると、エラーになります。

Windows 95 の ARP を利用して IP アドレスを設定できない場合は、ARP を実行している Windows 95 に 2 つ以上のインターフェース（例えば、Ethernet カードとモデムなど）が設定されていないかどうか確認してください。2 つ以上のインターフェース（アダプタ）が設定されている場合は、使用する IP アドレスが設定されているインターフェース（アダプタ）以外のインターフェース（アダプタ）の TCP/IP へのバインドを解除することにより設定できるようになります。

Windows 95、
Windows
98(NetBIOS/
NetBEUI):

AXIS Print Monitor を NetBIOS/NetBEUI 環境にインストールした際、環境によっては、利用できるポートのリストに AXIS プリンタポート (AXIS Port) が現れない場合があります。このような場合には、以下の点を確認してみてください：

1. AXIS Print Monitor をインストールした直後や Windows 95、Windows 98 を再起動した直後にプリンタウィザードを起動した時は、ウィザードで前の画面に戻り、少し待ってから次へ進んでみてください。
2. ネットワークにログインしていることを確認してください。ログインしている場合も、再度、ログインし直してみてください。
3. Axis プリントサーバの電源を入れ直し、Windows 95、Windows 98 を再起動してみてください。HUB、MAU のポート、ネットワークケーブル等に異常がないか確認してください。
4. Windows 95、Windows 98 のネットワーク環境が正しく設定されているかどうか確認してください。
5. NetBEUI プロトコルが使用可能であることを確認してください。Windows 95、Windows 98 のコントロールパネル中のネットワークアイコンを開きます。表示される現在のネットワーク構成中に複数のプロトコル (TCP/IP と NetBEUI 等) が組み込まれている場合は、NetBEUI をダブルクリックして NetBEUI のプロパティ画面を表示します。詳細設定を選択し、標準のプロトコルに設定 (Windows 95)、既定のプロトコルとして設定する (Windows 98) チェックボックスがチェックされていることを確認してください。
6. NetBIOS/NetBEUI は仕様上、通常、ルータを超えるような通信をすることはできません。したがって、Axis プリントサーバと Windows 95、Windows 98 の間にルータがあるようなネットワークでは、Windows 95、Windows 98 から Axis プリントサーバを認識することはできません。ただし、一部のルータでは、NetBIOS/NetBEUI の通信が可能な機種もあるようですので、ネットワーク管理者に確認してください。
7. テストプリントを実行し、Microsoft Networks and LAN Server/LAN Manager のステータスが enabled になっていることを確認してください。
8. 上記の操作・確認を行なっても AXIS Print Monitor から Axis プリントサーバが認識できない場合は、Axis プリントサーバ内の config ファイル中、NB_FR_TYPE パラメータをデフォルトの FR_AUTO から FR_802_2 に変更して試してみてください。

Windows NT:

実際に印刷を行なった時、プリントマネージャ上、すぐに「予期しないネットワークエラー」になる場合は、もう一度「プリンタをインストールする」の説明に戻り、長い共有名を付けたり、共有名に記号等を使用したりしていないか確認してください。

Windows 95、
Windows 98、
Windows NT 共
通：

印刷が途中で止まったり、文字化けしたり、再送されたりする場合は、以下の点を確認してみてください：

1. パラレルプリンタポートを利用している場合、プリンタとプリントサーバの間のパラレルインタフェースのタイミングが合っていない可能性があります。Axis プリントサーバ内の config ファイル中、L1_CENTR(LPT1 ポートの場合)、L2_CENTR(LPT2 ポートの場合) パラメータをデフォルトの HISPEED 以外の値、たとえば、IBM_PC や STNDRD に変更して試してみてください。
2. パラレルプリンタポートを利用している場合、タイムアウトが起きている可能性があります。Axis プリントサーバ内の config ファイル中、L1_BSYTM(LPT1 ポートの場合)、L2_BSYTM(LPT2 ポートの場合) パラメータのデフォルトの 60 という値を、もっと小さな値、たとえば、1 に変更して試してみてください (0 にはしないでください)。
3. プリンタドライバが双方向通信をサポートしている場合には、可能ならばプリンタドライバのプロパティで双方向通信を行わない設定にしたり、Axis プリントサーバ内の config ファイル中、PRx_IN パラメータ (x は、1 ～ 8) をデフォルトの AUTO から NONE に変更してみてください。
4. 論理プリンタ 5 ～ 8 は、デフォルトで文字列置換の設定が施されています。これらの論理プリンタにプリンタドライバが生成したバイナリ形式のプリントジョブを送ると、文字化けが起きる可能性があります。論理プリンタ 1 ～ 4 を使ってみてください。
5. 「ユーザズマニュアル 付録 A テストボタン」の説明にしたがい、Axis プリントサーバの設定を工場出荷時のデフォルト設定に戻し、すべての設定を最初からやり直してみてください。
6. 新しいプリンタドライバがないか、使用しているネットワークカードや OS に対する新しいパッチが出ていないか確認してください。特に Windows 95 の OSR2 や Windows 98 を使用している場合は、使用しているネットワークカードのドライバが OSR2、Windows 98 に対応しているか確認してください。
7. 可能ならば、他の Axis プリントサーバ、電源、プリンタと取り替えて試してみてください。

5.4. Macintosh 環境

- Axis プリントサーバとプリンタの間が単方向接続されている場合、つまり、双方向ではないパラレルインタフェースを持つプリンタをパラレルケーブルで接続した場合、また、Axis プリントサーバ内の config ファイル中、PRx_IN パラメータ (x は、

1 ～ 8) をデフォルトの AUTO から NONE に変更した場合は、フォントの制限を受けることになります。本来、Apple EtherTalk は双方向通信を前提としており、Macintosh からプリンタに対してフォント情報等の問い合わせが行なわれれば、プリンタがその返答を行なうわけですが、プリントサーバとプリンタ間が単方向接続されている場合は、プリンタが情報を返すことができず、代わりにプリントサーバが返答することになります。この時、プリントサーバはフォントに関して、「プリンタは何もフォントを持っていない」(Axis プリントサーバ内の config ファイル中、ATK_FONT パラメータがデフォルトの DEFAULT に設定されている場合)、あるいは、「プリンタはすべてのフォントを持っている」(ATK_FONT パラメータが ALL に設定されている場合) の二種類の応答を返すことができます。また、プリントサーバとプリンタ間が単方向の場合、PostScript のレベルは 1 と扱われ、解像度は 300dpi、1 ページ中の書体の数は 10 までという制限が加わる場合があります。一般的に、LaserWriter 8 ドライバを利用した時、ATK_FONT パラメータが DEFAULT に設定されている場合は日本語 PostScript フォントは汚くギザギザに印刷されますが、日本語 TrueType フォントは印刷可能です(ただし、300dpi、1 ページ 10 書体まで)。一方、ATK_FONT パラメータが ALL に設定されている場合は日本語 PostScript フォントは綺麗に印刷されますが、日本語 TrueType フォントは Courier に化けてしまいます。この振る舞いは使用する OS のバージョン、LaserWriter のバージョン、使用するアプリケーションやそのバージョン、プリンタ等により異なりますので、実際にお試してください。

- セレクタで Axis プリントサーバのプリンタ名が見えない、また、見えにくい場合は、Axis プリントサーバ内の config ファイル中、ATK_ZONE パラメータにゾーン名を設定してください。
- 画像が正常に印刷できない時等は、Axis プリントサーバ内の config ファイル中、BINARY_TYPE パラメータをデフォルトの TBCP から BCP に変更したり、BINARY パラメータをデフォルトの YES から NO に変更して ASCII 形式で印刷するようにしてみてください。
- 必要のないプリンタポートは、Axis プリントサーバ内の config ファイル中、ATYPE_x パラメータ (x は、1 ～ 3) を空欄にすることによりセレクタから見えなくすることができます。また、名前が「_CFG」で終わるプリンタポートは、電源投入後、1 時間で見えなくなります。その場合には、プリンタ 2、3 を利用して印刷するようにしてください。

印刷ができなかったり、印刷が途中で止まったり、文字化けしたりする場合は、以下の点を確認してみてください：

1. パラレルプリンタポートを利用している場合、プリンタとプリントサーバの間のパラレルインタフェースのタイミングが合っていない可能性があります。Axis プリントサーバ内の `config` ファイル中、`L1_CENTR(LPT1 ポートの場合)`、`L2_CENTR(LPT2 ポートの場合)` パラメータをデフォルトの `HISPEED` 以外の値、たとえば、`IBM_PC` や `STNDRD` に変更して試してみてください。
2. パラレルプリンタポートを利用している場合、タイムアウトが起きている可能性があります。Axis プリントサーバ内の `config` ファイル中、`L1_BSYTM(LPT1 ポートの場合)`、`L2_BSYTM(LPT2 ポートの場合)` パラメータのデフォルトの `60` という値を、もっと小さな値、たとえば、`1` に変更して試してみてください (`0` にはしないでください)。
3. 論理プリンタ 5～8 は、デフォルトで文字列置換の設定が施されています。これらの論理プリンタにプリンタドライバが生成したバイナリ形式のプリントジョブを送ると、文字化けが起きる可能性があります。論理プリンタ 1～4 を使ってみてください。
4. 「ユーザーズマニュアル 付録 A テストボタン」の説明にしたがい、Axis プリントサーバの設定を工場出荷時のデフォルト設定に戻し、すべての設定を最初からやり直してみてください。
5. 新しいプリンタドライバがないか、使用している OS に対する新しいパッチが出ていないか確認してください。
6. 可能ならば、他の Axis プリントサーバ、電源、プリンタと取り替えて試してみてください。

5.5.UNIX 環境

印刷ができなかったり、印刷が途中で止まったり、文字化けしたりする場合は、以下の点を確認してみてください：

1. パラレルプリンタポートを利用している場合、プリンタとプリントサーバの間のパラレルインタフェースのタイミングが合っていない可能性があります。Axis プリントサーバ内の `config` ファイル中、`L1_CENTR(LPT1 ポートの場合)`、`L2_CENTR(LPT2 ポートの場合)` パラメータをデフォルトの `HISPEED` 以外の値、たとえば、`IBM_PC` や `STNDRD` に変更して試してみてください。
2. パラレルプリンタポートを利用している場合、タイムアウトが起きている可能性があります。Axis プリントサーバ内の `config` ファイル中、`L1_BSYTM(LPT1 ポートの場合)`、`L2_BSYTM(LPT2 ポートの場合)` パラメータのデフォルトの `60` という値を、もっ

と小さな値、たとえば、1 に変更して試してみてください (0 にはしないでください)。

3. 特に PROS を利用している場合、Axis プリントサーバ内の config ファイル中、PRx_IN パラメータ (x は、1 ~ 8) をデフォルトの AUTO から NONE に変更してみてください。また、System V 系 UNIX で PROS A の方法を利用する場合は、PROS デーモンを生成する際、makefile 中、LEAVE_PIPE_OPEN=-DALWAYS_OPEN を指定してコンパイルしてみてください。
4. 論理プリンタ 5 ~ 8 は、デフォルトで文字列置換の設定が施されています。これらの論理プリンタにプリンタドライバが生成したバイナリ形式のプリントジョブを送ると、文字化けが起きる可能性があります。論理プリンタ 1 ~ 4 を使ってみてください。
5. ユーザーズマニュアル「第 13 章 テストボタン」の説明にしたがい、Axis プリントサーバの設定を工場出荷時のデフォルト設定に戻し、すべての設定を最初からやり直してみてください。
6. 新しいプリンタドライバがないか、使用している OS に対する新しいパッチが出ていないか確認してください。
7. 可能ならば、他の Axis プリントサーバ、電源、プリンタと取り替えて試してみてください。

5.6. その他

プリンタとの接続：

- IBM 社の特定のプリンタでは特殊なセントロニクスインタフェースが採用されているため、そのままでは Axis プリントサーバを使用できない (テストページも印刷できない) 場合があります。可能であれば、そのプリンタ用のプリンタケーブルを入手して試してみてください。

テストページが印刷できない場合、以下を確認してみてください：

1. プリンタケーブルを使用している場合、他のケーブルに取り替えてみる。
2. プリンタが、そのインターフェース (パラレルインタフェース、シリアルインタフェース) からデータを受け付ける設定になっているか確認する。
3. LPT1 または LPT2 ポートを使用する場合、ユーザーズマニュアル「第 13 章 テストボタン」の説明にしたがって L1_CENTR、L2_CENTR パラメータを変更してみる (たとえば、IBM_PC に変更してみる)。また、プリンタ側にもパラレルインタフェースに関する設定があれば、それを変更してみる。

ネットワークとの接続（イーサネット・ファーストイーサネット）：

- 100M ビットネットワークでは、カテゴリ 5 のネットワークケーブルを使用することを推奨します。
- ネットワークインディケータが断続的に点滅しない場合は、使用しているネットワークケーブルを他のケーブルに取り替えてみたり、HUB を利用している場合は他のポートに替えてみたりしてください。

ネットワークとの接続（トークンリング）：

- 16M ビットネットワークでは、標準的な UTP ケーブルではなく、シールドされた Media Type 3 ケーブルを使用することを推奨します。
- ネットワークインディケータが断続的に点滅しない場合は、使用しているネットワークケーブルを他のケーブルに取り替えてみたり、使用している MAU のポートを他のポートに替えてみたりしてください。

ネットワークとの接続（TCP/IP）：

- 初めて ping コマンドを実行する時は、通常よりも長く応答を待つ必要があるかもしれません。
- ping コマンドがタイムアウトする場合は、Axis プリントサーバの電源を一度入れ直してから再び試してみてください。
- arp コマンドを発行した時、「Network is unreachable」というようなメッセージが表示される場合があります。これは、設定している Windows(に付いているインターネットアドレスのネットワーク) から、Axis プリントサーバに付けようとしているインターネットアドレスのネットワークには到達できないことを表しています。ネットワーク管理者に相談し、適切なインターネットアドレスを指定してください。